東海地区
大学図書館協議会誌

59

2014

東海地区大学図書館協議会

東海地区大学図書館協議会誌　第 59 号　2014

目　　次

巻　頭　言　利用したくなる大学図書館へ
中部大学附属三浦記念図書館　館長　内藤　和彦　1

講演要旨　激動の時代を生き抜くために
富山大学学術情報部長（当時）　白木　俊男　2
西洋古版本の修復について　― 実演：くるみ製本の修理 ―
製本家／書籍修復家　岡本　幸治　9
洋書の扉：その表示史
元跡見学園女子大学教授　高野　彰　16
大学図書館にも親しみやすさを ― まず玄関を入ったあたりから
どうしたら親しみがもてて心地よいものがつくれるか
― ウォーレン・マッケンジー ―
図書館づくりと子どもの本の研究所代表　平湯　文夫　25
にぎわい・ふれあいの場としての図書館像
― 公共図書館と大学図書館での行動観察調査を通じて ―
愛知工業大学工学部建築学科准教授　中井　孝幸　31

行　事　第 68 回（2014 年度）総会・研究集会　42
施設紹介　愛知学院大学図書館情報センター名城公園キャンパス分館 Cubic Lib　50
名古屋大学附属図書館中央図書館　51

会則等　52
総会当番館一覧　55
加盟館一覧　56
役員館一覧　60
研修会一覧　61
広告主一覧

巻頭言

利用したくなる大学図書館へ

中部大学附属三浦記念図書館　館長
内　藤　和　彦

2014年8月1日（金）10：30から、中部大学リサーチセンター大会議室にて第68回（2014年度）東海地区大学図書館協議会　総会・研究集会が行われた。8月開催が恒例とのことなので、総会当番館として、そのように企画したのだが、やはり酷暑の真最中ということになった。それにも関わらず多くの方々の参加があった。皆様の熱意に敬意を表すると共に、感謝の意を表したい。

「総会」は、中部大学副学長：岸田民樹先生、東海地区大学図書館協議会長：佐野充先生の挨拶に始まった。用意された報告事項、協議事項、その他が上程され、原案どおり承認された。原案を準備された会長館（名古屋大学附属図書館）のご尽力に感謝したいと思う。ついで、永年勤続者の表彰が行われ、香田、江間、井上、花田、渡邊、原の6氏が表彰された。受賞者代表の挨拶の中で、「私が図書館員になった頃は、まだコンピューターが導入されていなかった。カード検索が主流だった。」という発言があった。さほど時間は経っていないのに…。知らないうちに図書館の業務内容が一変していたことにある種の感慨のようなものを感じた。それは私一人だけではなかったようだ。続く、「研究集会」は、「利用したくなる図書館～インテリア計画と建築計画～」をテーマに、平湯文夫：図書館づくりと子どもの本の研究所代表、中井孝幸：愛知工業大学工学部准教授の両氏に講演していただいた。平湯先生は講演で、冊子体を愛おしみ、冊子体と仲良く付き合うための道具、備品、家具やインテリア空間のしつらえ方、「平湯モデル」の話をされた。電子情報化が進むにつれ、逆に冊子体の存在意義がより明確になってきた為だと思う。先生の手掛けた図書館はすべて堅苦しく近づきにくかったものから利用者に親しまれるものへと生まれ変わっている。また、中井先生は講演で、改装・増改築・新築された日本各地の公共図書館や大学図書館の現況と利用実態についての詳細な分析結果を示された。

周知のように現在、コンピューターの導入、書籍類の電子情報化の伸展等、図書館を取巻く環境が大きく変わってきている。その結果、書庫にも若干ゆとりができ始めた。自前のパソコンから直接情報入手可能になり、図書館の利用率も減り始めた。これらが契機となって、図書館が大学教育の一端を担うという「ラーニング・コモンズ」の妙案がアメリカ発で提示されるようになったという。そして、我が国の多くの大学図書館がこぞって導入を検討し始めた。新しい機能が加わることになったため応分の改装、改築が必要だったが、なぜか導入に対する理解は得やすかった。おそらく、施設の老朽化等その他の要因もあったはずだが、大学図書館の改装・増改築あるいは新築が盛んに行われるようになった。パソコン環境の充実と書庫の開架化、ゆとりある閲覧室、リラックス出来る読書コーナー、飲食店の併設や飲食可能な読書室、個人学習用ブース、音楽・映像のための視聴覚コーナー、そして大学教員と学生が一緒に学ぶためのコモンズやグループ学習・自学自習可能なスペース等。その内容は「ラーニング・コモンズ」の導入が単なるきっかけにすぎなかったと言ってもよいほど多彩である。これは、コンピューター化、電子情報化がもたらした「冊子体を扱う制約からの部分的な解放」から惹起された社会的ニーズの表出と言ってもよいのかもしれない。賛否はあろうが、冊子体、電子媒体の分け隔てなく、両者の共存する、「利用したくなる図書館」に向かっているのは明らかである。図書館利用者はすでに冊子体・電子媒体を両者ともに使いこなし始めている。平湯先生や中井先生の示された新しい図書館の空間デザインがそれを先取りしている。大学図書館をもっと利用し易くするのに躊躇いは要らないと思う。

講演要旨　平成25年度東海地区大学図書館協議会「図書館職員基礎研修」(2013.12.13)

激動の時代を生き抜くために

富山大学学術情報部長（当時）
白　木　俊　男

東海・北陸地区の図書館職員を対象とした基礎研修会での講演ということもあり、個々の図書館業務については他の講師の方が詳しく話されるであろうという前提のもと、『激動の時代を生き抜くために』という表題で、これからの大学図書館を担う若手職員のみなさまに、独断と偏見に満ちたわたしの考えを述べさせていただいた。

第一章『いま、大学は？』では、いまの日本の大学を取り巻く環境の変化について再確認の意味を込め、「教育研究力強化」「ガバナンス強化」「財政基盤強化」「国際化と教育の質の保証」「18歳人口の減少」「グローバル人材育成」などというキーワードを検証しつつ、それらについて中長期的な対応を迫られていることを認識していただき、それを乗り越えない限り、日本の大学には未来はないことを話した。

第二章『仕事を円滑にこなすには？』では、まず、自分の仕事が大学全体の業務のなかで、どのように位置づけられているのかをしっかりと自覚したうえで、仕事に取り組む必要性の大切さについて述べた。また、仕事を円滑に進めるためにも、周りの人々の協力を得るためにも、仕事の途中経過をしっかりと報告することの大切さに触れ、問題のなかにこそ「進むべき方向へのヒント」が潜んでいることを力説した。ただ、実際に直面する問題には、明確な正解といえるものはないのが一般的であるため、最終的には自分を信じ、周りの支援がないのはあたりまえと思って取り組めば、周囲に腹を立てることもなく、安寧な気持ちで仕事にあたることができると伝えた。

第三章『プロ意識を持て！』では、大学といえども拡大再生産を続ける組織としての源泉は利益であり、大学図書館もその例外ではないことを伝え、人にとって大切なことは「教育」ではなく、積極的な自らの「学び」にあることを強調した。また、「好き嫌い」は自然な心と体の反応であり、それを大切にし、自分がなにをしたいのかをしっかりと自己主張できるように努めてほしい旨を伝えた。「出る杭は打たれる」というけれど、「出過ぎた杭は打たれない」という現実について話した。

第四章『足場を固めよう！』では、真の国際人とはどういう人のことを指すのかということについての私見を述べた。自分を無能と認識することで、人は初めて職業人としてのスタートラインに立つことができ、また、経験の積み重ねは人にとっては大切だが、その豊富な経験こそが思考のパターン処理に陥りがちな要因であり、思考停止に繋がる危険性を孕んでいることを強調した。さらに、自分が思う「当たりまえ」と社会が期待する「当たりまえ」には、大きなギャップがあることを述べた。そして、危機の時代に必要なものは、通り一遍の知識ではなく、感情に密接に結び付いた智慧であることを伝えた。

最後に『おわりに』では、職場の人間関係を大切にし、ヒューマン・ネットワークを良好に維持することができれば、大概の仕事はうまくいくこと、そして、人生にとって一番大切なものは、愛にしても、友情にしても、信頼にしても、みんな目には見えないものばかりであることを話し、一生続くであろう同期の仲間との絆を大切に、学問に裏打ちされた教養と人間的な魅力こそが、長い人生を楽しく生きるための唯一のパスポートであることを伝えた。詳細については、研修会当日に使用したPowerPoint資料を参照していただきたい。

激動の時代を生き抜くために

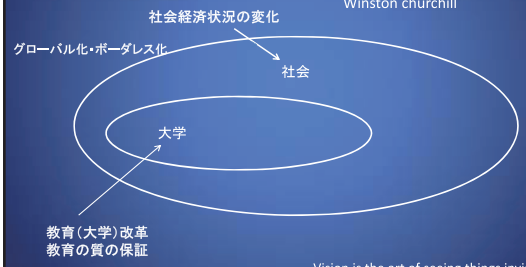
富山大学 学術情報部長
白木　俊男

http://shiraki.whitesnow.jp/photo_library/tshiraki/profile/index.html

Ⅰ．　いま、大学は？

変革の嵐のなかでの旅立ち

To improve is to change; to be perfect is to change often.
Winston churchill



Vision is the art of seeing things invisible.
Jonathan Swift

大学を取り巻く環境の変化

- 教育研究力の強化　ICTを活用した教育学習振興
- ガバナンスの強化
- 財務基盤の強化　国立大学法人運営費交付金が法人化後一貫して減少

- 国立大学のミッションの再定義
- 国際化と教育の質の保証
- 18歳人口の減少　⇒　社会人再教育の充実
- 海外への留学生の減少（中国、インド、韓国は大幅増）
- グローバル人材育成
- イノベーション創出に向けた産学（官）連携
- センター試験を廃止し、到達度テスト（仮称）　5～6年後

（教育再生実行会議）

最近の国立大学法人を取り巻く状況

H25年4月　人材力強化のための教育改革プラン
戦略1　人事・システムのグローバル化により、世界トップレベルの拠点を形成
戦略2　イノベーション機能を抜本強化し、未来を見据えた理工系人材を育成
戦略3　人事給与システムを改革し、優秀な若手研究者・外国人の活躍の場を拡大

H25年5月　教育再生実行会議(第三次提言）5/28
○徹底した国際化を断行し、世界に伍して競う大学の教育研究環境をつくる
○大学を牽引するイノベーション創出のための教育・研究環境づくりを進める
○大学のガバナンス改革、財政基盤の確立により経営基盤を強化する

H25年6月　日本最興戦略　6/14
○人材・教育システムのグローバル化による世界トップレベル大学群の形成
○イノベーション機能の抜本強化と理工系人材の育成
○人事給与システム改革による優秀な若手・外国人研究者の活躍の場の拡大

教育再生実行会議（第四次提言）　10/31

○ 大学の多様な機能を踏まえ、大学教育の質的転換、厳格な卒業認定及び教育内容・方法の可視化を徹底し、人材育成機能を強化する

○ 大学入学者選抜を、能力・意欲・適正を多面的・総合的に評価・判定するものに転換するとともに、高等学校教育と大学教育の連携を強力に進める

本当に強い大学　日本の大学トップ300

週刊東洋経済　11/2特大号から抜粋

1　東京大学
2　京都大学
3　慶応義塾大学
4　大阪大学
5　豊田工業大学
6　早稲田大学
7　東北大学
8　東京工業大学
9　名古屋大学
10　九州大学

世界大学ランキング

23　東京大学
52　京都大学
125　東京工業大学
144　大阪大学
150　東北大学

Times Higher Education 2013-2014より引用

30　鳥取大学
36　広島大学
51　岡山大学

文部科学省では、国際化を断行する大学を重点的に支援し、スーパーグローバル大学を創設

⇩

今後10年で世界大学ランキングトップ100に10校ランクイン

Ⅱ．　仕事を円滑にこなすには？

仕事の流れを覚える

仕事の目的は？

⇩

大学全体の業務のなかで、どのように位置づけられているか

仕事では命令を受けることの連続

仕事を円滑に進める基本は、
復唱したり、メモをとること

報告の大切さ

担当している仕事の途中経過や結果の報告

⇩

仕事を進めやすくなる

報告・連絡・相談は基本的なビジネスマナー

問題は宝

問題のなかにこそ、重要な宝が潜んでいる

⇩

問題を整理し、優先順位をつける

⇩

何が重要なのか、一目でわかるようになる

社会での問題は複雑

これが正解という明確な答えはない

↓

支援がないのはあたりまえと思って、
自分を信じ、進むしかない

問題から逃げたら、進歩はそこまで

Ⅲ．　プロ意識を持て！

利益とは？

企業にとっては、拡大再生産を続ける源泉
外部資金を調達できない大学は？

↓

安定した財務基盤確立への動きの有無が生死を分ける

学びとは？

「学ぶ」ということは、「見て習う」こと

↓

昔は、見て「盗む」ことだった

いま、何をなすべきか？

If you do not know where you are going,
Every road will get you nowhere.
Henry Kissinger

↓

人間には、「教育」が必要だという思い込みからの脱却

必要なのは、「学び」

好き嫌いは大切

好き嫌いは、もっとも自然な心と体の反応

↓

しっかり自己主張をする

自分が何をしたいのかわからない人間を生み出す
精神的土壌からの脱出

いま、必要な人材

■伝統的な労力に基づくサービスを管理できる人材
■新しいシステムをデザインするイマジネーションと創造力豊かな人材
■それらの人材を非常に複雑な機械の中に組み入れ、生かす才能を兼ね備えた人材

「21世紀に向けて図書館職員を考える」よりJLA大学図書館部会編

注）ほぼ、15年くらい前の資料

出る杭は打たれる？

「出る杭は打たれる」というけれど、
「出過ぎた杭は打たれない」

↓

ひ弱では、競争化社会でサバイバルできない

Ⅳ.　足場を固めよう！

国際人って、どんな人？

国際人とは、外国語を流暢に話せる人のことではなく、自分の生まれ育った国（土地）の文化等を、他の文化圏の人々にも伝えることができる知識を有する人のこと

↓

自分の立ち位置をしっかり固めよう！

日本人として、大学人として、図書館職員としての足場をしっかりと

己の無能さを自覚し、認識することで
人は初めて、職業人としてのスタートラインに立つことができる

経験の積み重ねは大切なことだが、
パターン処理に陥りがちになる

↓

思考停止に陥りがち

自己啓発

職場以外の場所で、どれだけ自己啓発を行えるか

語学の習得には、学習目的を特化した方が効率的

向上心を持ち続けよう！

当たりまえの難しさ

当たりまえのことを、当たりまえにする

自分が思う「当たりまえ」と社会が期待する「当たりまえ」には
大きなギャップがある

責任をとることの大切さと 不平不満を言わないことの大切さ

いつも言い訳をして、他人の責任にする人と
自分の責任を潔く認め反省する人

いつも不平不満を言っている人と
大変な仕事も楽しんで行っている人

どちらを応援したくなりますか

周りにいる人々の協力は不可欠

みなさんは情報収集のプロ

図書系職員は、情報の集め方と使い方のプロ

目標管理と時間管理をしっかりして、
常にコストを抑えるという意識をもつこと

TPOを考えて、専門用語や略語は控える

例えば、
本学のOPACの特徴は・・・・
では、一般人にはわからない

自分にとっての常識は、他人の常識ではない

OPAC（コンピュータでの蔵書検索）

集中力を身につける

■体調を整える（十分な睡眠）

■息抜きをする（5分くらい体を動かす）

■誘惑を断つ（スマートフォンなどを目に見えないところに置く）

■ホワイトノイズを聴く
（雨やさざなみなどの単調で心地よいノイズ）

危機の時代をどう乗り越えるか？

■ CRISIS ＝ DANGER ＆ OPPORTUNITY

医学情報サービスの現状と将来（3）：あいみっく9(1), 1988　　図書館情報大学　野添 篤毅著より

組織のなかで本当に必要な人材は、どんな組織でも2割程度

教育は向上したが、理性・判断力・信念は低下

感情に密接に結びついた智慧が形成されていない

想定外への対応

人間の理性が想定できるものは、いかに貧弱なものに過ぎないかを知るべき

↓

「想定外」にいかに対応するか

↓

何をするにも事前のシュミレーションの深さが大切

Ⅴ．　おわりに

偶然の縁（えにし）を大切に

- 偶然の出会いを大切にしよう
- ヒューマン・ネットワークができれば、仕事はできたようなもの
- 仕事は自然に覚えていくけれど、人間関係には気遣いが必要
- 大切なものは、みんな目に見えない！

If you can dream it, you can do it.
Walt Disney

同期の絆

同期の仲間との絆を大切に

↓

仕事で繋がるだけではなく、
個人としてどう繋がるかがポイント？？

学問に裏打ちされた教養と人間的な魅力こそが、
「人生のパスポート」

文教ニュース　平成25年11月25日　第2267号　文部科学時評より引用

↓

「読む」ことと「生きる」ことは直接関係ないが、
深いところで結びついていて、
人生における重要な局面で示唆を与えてくれる

講 演 要 旨　　平成 25 年度第 2 回東海地区大学図書館協議会研修会（2014.3.3）

西洋古版本の修復について　― 実演：くるみ製本の修理 ―

製本家／書籍修復家
岡 本 幸 治

はじめに

西洋古版本は現代の本とは異なる点を多く持っている。印刷に用いられる紙は、麻（主として亜麻）のボロ（古着）を原料にした手漉き紙である。手すき紙には様々な大きさの紙があり、紙の方向を変えながら折畳むことによって 2 紙葉のフォリオ判、4 紙葉のクォート判、8 紙葉のオクタボ判などの折丁が構成される。印刷は活版印刷であり、一冊分のテキストが一度に印刷されることは少ない。多くの場合、印刷の終えた組版活字をばらして残りのテキストを印刷する。印刷が終わるまでに紙が替わってしまう場合もある。校正や検閲などにより印刷が修正されてページが差し替えられる場合もある。印刷・出版と製本は別々に行われることが普通であって、出版時には製本がされておらず購入者がそれぞれ製本を依頼する。同じ出版物であっても、製本は異なったものになる。したがって西洋古版本は、所蔵の履歴が色濃く形態に反映されている。タイトルが同じでも同一の版とは限らず、同一の版であっても製本などによる形態が異なる。簡略で貧相な製本で、余白を大きく断裁されてしまうこともあれば、華麗で豪華な製本が施され、ページの余白がたっぷりと保持されている場合もある。製本時にメモのための白紙が付け加えられたり、蔵書票が貼付されたり、メモが書き込まれたりすることもある。

印刷された紙葉を本のかたちに仕立てるのは製本である。テキストは製本されて初めて本としての機能を獲得する。西洋古版本の製本は手作業で行われており、作り方も構造も現代のものと異なっている。製本工房に印刷された紙が到着すると、製本職人がページの順番が正しく重なるように紙を折りたたんで折丁を形成する。テキスト紙葉のほかに見返し用の紙葉を付け加えてから折丁を順番に重ねて「かがり台」を使って綴じる。麻ロープ、麻紐、革紐、羊皮紙テープ、テープなどの綴じ支持体を用いて、折丁の折り目の内側を丈夫な麻（亜麻）糸で綴じる。背バンド綴じ（図 1）、支持体かがり綴じ（図 6）、テープ綴じ、など様々な支持体を用いた綴じ方がある。一運針で 2 つか 3 つの折丁を同時に綴じる「抜き綴じ」が頻繁に行われている。綴じが終わると背の丸みを作り表紙ボードの厚みに合わせて背の側に「耳」の突起を形作る。

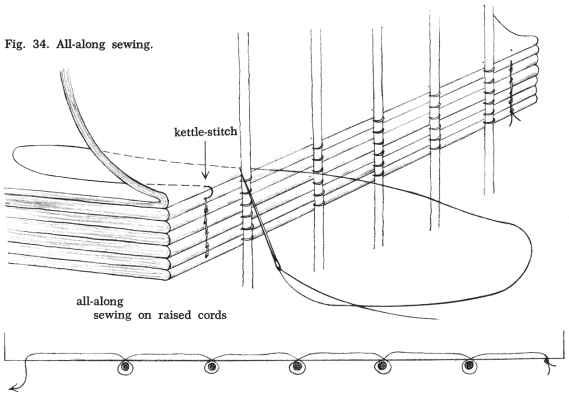


図 1.《背バンド綴じ》

それから表紙ボードに開けた穴に綴じ支持体の末端を通して接続する。紙、羊皮紙、布などで背貼りをして背を補強し、必要に応じて小口装飾（金付けやマーブル染め、色染めなど）を行う。生成りの糸または色糸を使って「はなぎれ」を編み、表紙革を貼り、見返しを貼る。金箔押し、革モザイクなどで表紙の装飾を行ないタイトル文字を押す。金箔押しの装飾様式には時代によってさまざまな傾向がある。見返しや小口装飾に使われるマーブル染めにも時代的傾向がある。製本時に付

け加えられる見返し用紙に「透かし文様」があれば、製本された時代の特定に役立つことがある。このようにして出来上がった本は、現代の本のようにはページが開かず、無理に開こうとすると背や綴じ、見返しなどを傷めてしまう場合がある。取扱いの仕方に注意が必要である。

綴じ支持体を使って表紙ボードを固定する製本を「綴じつけ製本」（図2）と呼んでいる。「綴じつけ製本」は印刷術発明以降の支配的な製本構造である。ほかに実用的な製本として「リンプ製本」（図3）がある。主として羊皮紙を表紙に用いている。18世紀末から「くるみ製本」（図4）が使われるようになった。「くるみ製本」は、表紙と中身とを別々に作って最後に接着剤で接続する製本構造であるが、「綴じつけ製本」からの過渡的なバリエーションの製本構造もある。大きな特徴としては、背がホローバックの穴あき構造になっていること、背と表紙ボードとの間にミゾがあること、表紙ボードが綴じ支持体によって構造的に接続されていないことである。表紙ボードと中身の接続を構造的に支えているのは背貼り布（寒冷紗）である。「くるみ製本」は大量生産に適した製本構造であり、19世紀以降の出版物の一般的な形態になった。西洋古版本に一般的な製本構造ではないが、出版年代より遅れて製本された場合や、修復時や再製本時に「くるみ製本」に変更されていることがよくある。

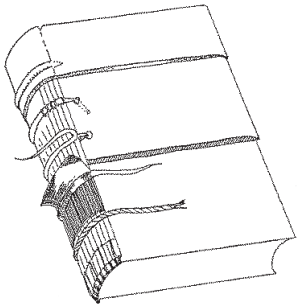


図2.《綴じつけ製本》

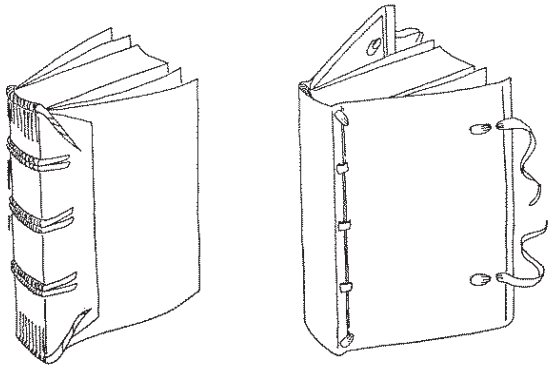


図3.《リンプ製本》

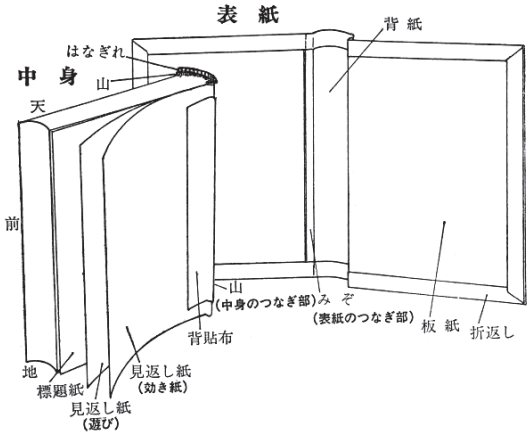


図4.《くるみ製本》

「とじつけ製本」構造の本の保存・修復には専門的な知識と経験、技術、道具が必要であり、専門家に相談し依頼することが望ましい。「くるみ製本」構造の本の保存・修復では、専門家でなくても出来ることがある。適切な研修を受ける機会があればさらに作業可能な範囲が広がる。古版本の歴史的特徴を可能な限り保存しながら、機能を回復するための修理にあたることが大切である。「くるみ製本」の構造と修理について以下に述べる。

1．くるみ製本の構造的特徴

くるみ製本は19世紀以降に広く行われるようになった製本構造である（図5）。表紙と中身とを別々に作り、接着によって接続して出来上がる。

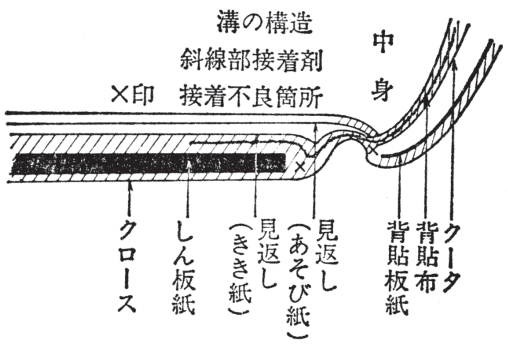


図5.《くるみ製本の構造》

初期のくるみ製本には構造的なバリエーションがある。綴じつけ製本の構造に近い「ブラデル製本」には注意が必要であり、専門家にゆだねるのが適切である。現代の本のほとんどはくるみ製本で出来ている。表紙と背表紙とのあいだにミゾがある。現代では製本工程が機械化されている。

１－１．綴じ

古い製本の場合は支持体を用いた「支持体かがり綴じ」（図６）か「テープ綴じ」または機械による「糸綴じ」（図７）である。「支持体かがり綴じ」と「テープ綴じ」の場合は、折丁の内側に渡る綴じ糸は１本だが、機械による「糸綴じ」の場合は２本になっており綴じの位置が飛び飛びになっている。機械による「糸綴じ」の場合は糸どうしが構造的に絡まっていないので、ほつれた糸がある場合には綴じ糸をすぐに接着固定してほつれが広がらないようにすることが大切である。図版だけを１冊にまとめるなどの場合には平綴じの「からげ綴じ」が使われることもある。現在ではほとんどの本が糸を使わない接着剤製本（無線綴じ）で作られている。

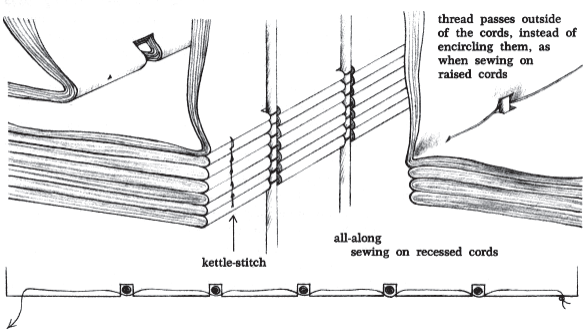


図 6.《支持体かがり綴じ》

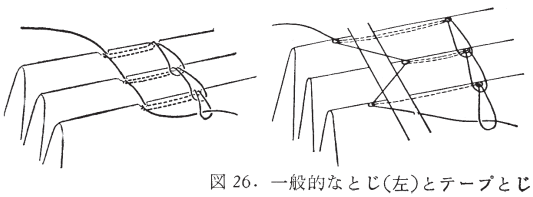


図 26．一般的なとじ(左)とテープとじ

図 7.《機械による糸綴じ》

１－２．背貼り

綴じを終えると背に接着剤を塗って丸味出し・バッキングを行ない、寒冷紗や紙を貼って補強する。寒冷紗の背幅より広くはみ出た部分を後の工程で表紙ボード裏側に固定して中身と表紙の接続を補強する。

１－３．はなぎれ

くるみ製本では他の古版本の製本のように糸ではなぎれを編みつけることが少ない。本の背の天地末端に製品化された布製のはなぎれを貼りつけることが多い。省略される場合もある。

１－４．表紙

背表紙と平ボール紙の間にはミゾがあるのが一般的である。ミゾが狭かったり、まったく無い場合もある。綴じつけ製本からの過渡期の「ブラデル製本」の場合、背表紙芯紙と平ボール紙が本の上に直接組み立てられている。初期の手作業のくるみ製本では、背表紙芯紙と平ボール紙があらかじめ構造的に接続されている。いずれもミゾが作られてある。ほとんどの場合は、背表紙芯紙と平ボール紙はミゾの分だけ離して作られている。

１－５．背表紙

ほとんどが背表紙と本の背とのあいだにすき間がある「ホローバック」（図８）の穴あき構造である。背表紙芯紙がなくて背に表装材が直接貼られている穴なし構造の場合もある。古い製本では背表紙芯紙が厚くて柔軟性に欠けるものが多い。背表紙の構造だけで開きやすさが決まるわけではない。

図 8.《ホローバック》

１－６．表装材

古い製本の場合は革、羊皮紙、手すき紙、マーブル紙、製本クロスなどによる表装とその組み合わせが多い。現在では主として紙や製本クロスが使われている。

１－７．見返し

白い紙やマーブル紙、色紙、印刷された紙など一般的には本文紙より厚手の紙が用いられること

が多い。ほとんどの場合が「貼り見返し」(図9)構造だが「巻き見返し」(図10)「綴じ見返し」(図11)もある。

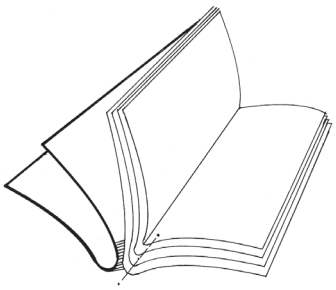


図 9.《貼り見返し》

表紙開閉によって見返しノドにかかる負荷が、「貼り見返し」の場合では見返しが貼りつけられたページのノド部分に転嫁される。厚手の紙で見返しを作ったり見返しノドを補強すると見返しは負荷に耐えるが、貼りつけられたページは耐え切れずに破断する。このことを充分に考慮すべきである。

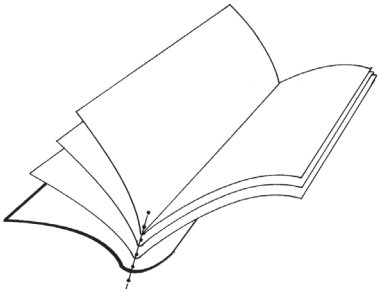


図 10.《巻き見返し》

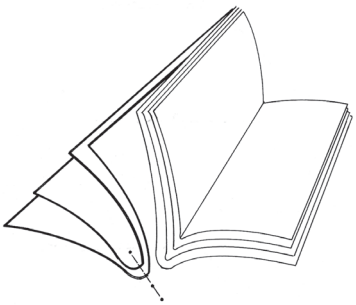


図 11.《綴じ見返し》

2．くるみ製本の修理

くるみ製本は表紙と中身とを分離することが可能であり、背や綴じの修理作業に役立つ。破損している部分を直せば修理が完了するわけではない。本が傷むのには様々な原因が製本構造にしたがって作用しあっている。その結果として破損が生じている。製本全体の力学的バランスに十分に留意した修理をすべきである。寒冷紗とクータの有効な使い方、見返しや表紙の修理への和紙の利用について紹介する。

2－1．表紙と中身の分離

表紙と中身とを分離しなくても可能な修理が沢山ある。しかし現存の寒冷紗が傷んでいたり、綴じの修理が必要な場合には分離して修理することが望ましい。貼り見返しの場合、本のページに見返しが接着されている部分で分離して、残っている寒冷紗を切断する。

2－2．ページの修理

ページ修理は、表紙と中身を分離しなくても可能な作業である。ページが破損している場合は和紙とデンプン糊で修理する。どんな種類であっても粘着テープは使わない。テープの素材ではなく粘着剤の使用が好ましくないからである。修理には厚さや色味の異なる良質の楮を原料とした機械漉き和紙をそろえると便利である。機械漉き和紙の繊維の流れ目を利用して薄い和紙をページの両面に貼って修理する（図12)。繊維の流れ目が破損部分にまたがるように使う。正麩糊が好ましいが市販のデンプン糊も利用できる。糊をよく練って水を加え、適切な濃度に調整して用いる。

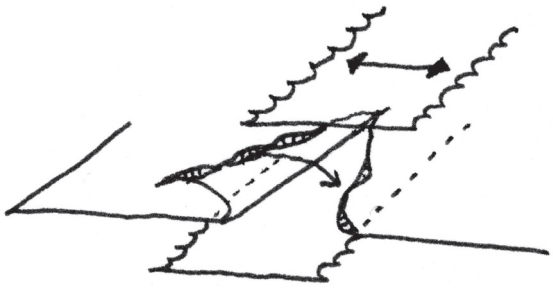


図 12.《ページ修理での和紙の使い方》

2－3．綴じの修理

糸綴じの本は原則として「リンクステッチ」(図13）の原理を応用して修理する。リンクステッチは綴じ糸どうしを絡めることで折丁をまとめる綴じ方である。支持体を使った綴じであってもリンクステッチでの修理が可能である。綴じの一部を修理する場合には、現存する綴じ糸や支持体が十

分に再利用できるだけの強度を持っているかどうかを判断する必要がある。強度を失っている場合が多々ある。

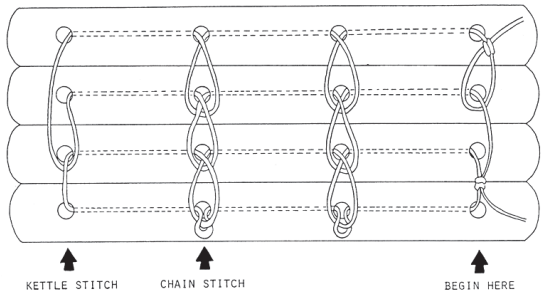


図 13.《リンクステッチ》

２－４．背貼りの修理

原則として、現存の寒冷紗を除去せずに新しい寒冷紗を重ね貼りする。現存寒冷紗の上に紙などが貼ってある場合、接着が良好であればそのまま寒冷紗を重ね貼りする。接着が不安定であれば紙を剥がしてから重ね貼りをする。寒冷紗は「裏打ち寒冷紗」が使いやすいが、薄くて丈夫な布であれば利用可能である。背幅よりも広く用意する。

２－５．背表紙の修理

背表紙が部分的に破損している場合は、クータの利用を検討する。クータは薄くて丈夫な紙を筒状にしたものでホローバックの機能を邪魔しない。クータの両面に接着剤を塗ってホローバックのすき間に挿入し（図 14）、背表紙破損部分を内側から接着して外側には和紙を貼って修理する。通常は背幅に合わせてクータを作るが、背幅より広いクータは見返しノドにかかる負荷を緩和する働きがある。可能であれば背幅より若干広く作るのが理想的である。

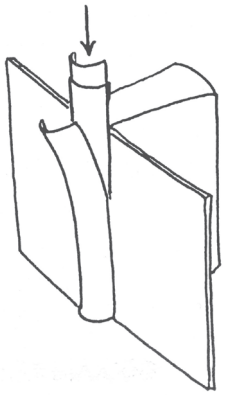


図 14.《クータの挿入》

布背表紙が完全に分離している、または分離しかけている場合は色や材質が似ている製本クロスによる修理を検討する。背表紙芯紙が厚くて柔軟性が無い場合は現存の芯紙を除去して柔軟な紙に取り換える。新しい背表紙芯紙を修理用クロスの中央に貼り、芯紙の両側に適切なミゾ幅を確保して２枚の表紙ボードと接続する。修理が終わったら元の背表紙を適切な大きさにカットして戻して貼る。クロスの替わりに染色した厚手の和紙による修理も可能である。

２－６．表紙と中身の接続（クータ）

本の背の寒冷紗の上にクータを貼る。クータには洋紙を用いることが多い。紙の目と折り目の方向が一致するように使う。可能な限りクータは背幅よりも広く用意する。丸背の場合は「背幅＋耳の高さ×２」、角背の場合は「背幅＋ 10 ミリ」を目安にしている。寒冷紗とクータに接着剤を塗り、寒冷紗に均等にまたがるように貼る。

２－７．表紙と中身の接続（寒冷紗）

表紙裏の見返し（効き紙）ノド部をボードから剥がす。現存の寒冷紗を残したまま寒冷紗ごと持ち上げて寒冷紗の幅だけ剥がす。元々寒冷紗を貼っていなかった本の場合も、寒冷紗で本の背と表紙とを接続するのが望ましい。表紙裏見返しのノド部の下に刃物で切り込みを入れて寒冷紗を受け入れる幅を剥がす。本の背だけに接着剤を塗って元の見返しの位置に合わせて本を表紙の上（見返しの上）に寝かせて置く。元の見返しの位置にきちんと合わせる。残りの表紙を本にかぶせ、背の位置が元通りに合っていることを確認し、背をよくこすって接着する。背が固定されたら寒冷紗に接着剤を塗り、表紙ボードの裏側、見返しの下側になるように貼る。表紙ミゾを接着する。

２－８．見返しの修理

寒冷紗を表紙ボードの裏側に貼って接続したら、見返し（効き紙）の剥がしていた部分を貼り戻す。見返しのノドが切れていたり弱っている場合は「効き紙」と「遊び紙」を分離して、「効き紙」の側だけを貼り戻す。中厚の和紙を「効き紙」の上から本のノド側にまたがって貼る。「遊び紙」をノドに合わせて貼り戻す。天・前小口・地の小口をピッタリそろえて貼ることが大切である。必要があれば、ノドの和紙を彩色する。他の貼り方のバリエーションもある。

２－９．表装材の修理

表装材の修理には革や製本クロスを用いるのが一般的であるが、和紙の使用について紹介する。表紙ジョイントのミゾ部分が傷んでいる場合、表装材の内側と外側に和紙を当てて補強することが出来る。和紙の繊維方向がジョイント部にまたがるように使うことが望ましい。背の天地末端部の補強にも和紙が有効である。和紙をアクリル絵の具やシリアス染料などで革、クロス、見返しなどの色に染色して使用することができる。機能の回復が目的なので和紙を染色しないで使うことも可能である。表紙の外側に使われる和紙の毛羽立ちを押さえ補強するために、和紙の乾燥後にコーティング剤を塗布するのが望ましい。私はHPC（ヒドロキシ・プロピル・セルロース）の1.5％アルコール溶液や皮革用のアクリル・コーティング剤である「SC6000」などを使用している。また正確な色合わせは出来ないが市販の染色和紙を使うことも可能である。その場合は良質の原料を使った和紙であることを確認する必要がある。染色した和紙にはパルプが混ざっている場合が多く、和紙も輸入楮を原料としているものが多い。大切なのは和紙の強さに期待するのではなく、構造修理をしっかり行うことである。

２－10．くるみ製本の構造的負荷

一般的にくるみ製本は背と表紙とのあいだにミゾがあり、表紙が柔軟に開閉する構造である。さらにホローバック構造の背が表紙開閉にともなう負荷を分散する仕組みになっている。しかしながら実際には製本の仕立てなどによって表紙開閉が十分に機能していない場合が多く、表紙開閉による負荷が発生している。特に「貼り見返し」構造の場合には、負荷が見返しが貼りつけられているページへ転嫁される。通常は見返しよりも貼りつけられたページの紙の方が弱い紙である。見返しを強い紙で作ったり、他の材料を使って見返しを補強することは貼りつけられたページへの負荷を増大することになる。またホローバック構造で背表紙芯紙が厚くて柔軟性に欠ける場合は、表紙ジョイントのミゾへ大きな負荷がかかる。背表紙芯紙を薄くて柔軟な材料に取り換えるのが望ましい。

ミゾ付きの表紙接続とホローバックはくるみ製本の大きな特徴であるが、これを構造的に内側から支えているのが寒冷紗である。寒冷紗を使っていないくるみ製本は耐用性が劣っている。ホローバックが本の良好な開閉機能に役立っている反面で、背の変形と綴じへの負荷を増大させている。この弱点を補うのがクータである。クータは背幅に合わせて作るのが一般的であるが、背幅より広く作るとより機能的であり効果的である。くるみ製本の修理時には可能な限り幅広クータを使うことが望ましい。

２－11．修理に使う材料と接着剤

製本の修理には将来に保存上の問題が生じないよう上質な材料を用い、可能な限り可逆性のある技法と接着剤を使う。現状の大きな変更は出来るだけ避ける。和紙は国内産楮を原料とする楮100％の和紙を使用することが望ましい。目的に応じて色や厚み、風合いの異なる和紙を使う。和紙の繊維方向が破損部にまたがるように使うと効果的である。洋紙を使う場合は生産工程で酸を使っていない無酸の紙で、PAT（写真活性度試験）に合格したものが望ましい。

接着剤は主としてデンプン糊を使う。正麩の粉で少量の糊を作るには電子レンジの使用が便利である。正麩の粉１に対して水３～４の割合で加えて攪拌し、電子レンジで加熱する。吹きこぼれにくいようにコップ型の容器が望ましい。沸騰して吹きこぼれないように加熱する。加熱が不十分な場合は攪拌と加熱を繰り返す。全体が十分に沸騰したら冷ましてから網などを使って漉す。保存料の添加されている市販のデンプン糊を使うことも可能である。糊は使う量だけを取り分けて良く練って、それから徐々に水を加えて攪拌し、作業に適した濃度に調整して使用する。初期接着力と乾燥後の柔軟性が必要な場合にはいわゆるボンド糊（PVA酢酸ビニル樹脂エマルジョン）を使う。可逆性に欠けることと酸性であることが欠点である。外国の製品であるが、中性で可逆性のあるボンド糊（Jade R）が市販されている。これまで述べた材料、道具、SC6000、JadeRなどについて末

尾に入手先のリストを加えたので参考にしていただきたい。

修理は製本と異なって、破損の状況などによっては通常ではない方法や順序で作業を行う場合がある。応用力が必要とされる仕事である。現在の破損を直すだけでなく破損の原因を探って、今後も安全に使えるようにするにはどうすれば良いのかを熟慮すべきである。手軽な修理が新たな破損の原因になることがある。

図版の出典

図 1　Middleton, Bernard C.“The restoration of leather bookbinding”Chicago, 1972.

図 2　Johnson, Arther W.“The Thames and Hadson manual of bookbinding”London, 1978.

図 3　Clarkson, Christopher.“Limp vellum binding band it's potential …”Hitchin, 1982. を基に著者が作成。

図 4　古野健雄『図書館の製本』日本図書館協会 1980.

図 5　光田　実『図書の修理と製本』全国学校図書館協議会 2000.

図 6　Middleton, Bernard C.“『上掲書』

図 7　牧　経雄『製本ダイジェスト』印刷学会出版部 1975.

図 8　牧　経雄　『上掲書』

図 9 ～図 11　Federici, Carlo / Koulis, Konstantinos.“Legature byzantine vaticane”Roma, 1988.

図 12　増田勝彦・岡本幸治・床井啓太郎『西洋古典資料の組織的保存のために［改訂版］』一橋大学社会科学古典資料センター、2010。

図 13　Morrow, Carolyn C. / Dyal, Carole.“Coservation treatment procedures”Colorado, 1986.

図 14　増田勝彦・岡本幸治・床井啓太郎『上掲書』

主な材料の入手先

－製本工房リーブル（裏打ち寒冷紗、綴じ糸、製本道具など）
〒 113 東京都文京区本郷 1-4-7　協和ビル 3F
Tel/Fax 03-3814-6069

－紙舗　直（和紙、正麩糊など）
〒 112-0001 東京都文京区白山 4-37-28
Tel/Fax 0-3944-4699

－（株）TT トレーディング（旧特種紙商事）（保存用紙、ボードなど）
〒 104-0028 東京都中央区八重洲 2-4-1　常和八重洲ビル 6 階　Tel 03-3273-8516
URL　http://www.tokushu-papertrade.jp/index.html
オンラインショップ
http://www.tokushu-papertrade.jp/netshop/index.html

－田中直染料店（シリアス染料）
〒 150-0011 東京都渋谷区東 1-26-30　宝ビル 3F
Tel 03-3400-4894
URL　http://www.tanaka-nao.co.jp/
オンラインストア
http://www.tanaka-nao.co.jp/shop

－桐生和紙（星野増太郎）（和紙、染色和紙）
〒 376-0601 群馬県桐生市梅田町 5-7348
Tel/Fax 0277-32-0201
URL
http://homepage2.nifty.com/shin-tachibana/washi.htm

－（株）田村書店・洋書部（SC6000、Jade R など）
〒 101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-7-1
Tel 03-5577-4226　Fax 03-3295-0039
URL　http://www.tamurashoten.com/02our_shop.html

講演要旨　平成25年度第2回東海地区大学図書館協議会研修会（2014.3.3）

洋書の扉：その表示史

元跡見学園女子大学教授
髙　野　　彰

１．序

本には扉（ページ）がある。扉とは英語で「title-page」といい、書名を示すページである。本は内容を読むものであり、それは本文が示している。当初は書き始め語（incipit）という言葉で本文が始まり、簡略な内容表示がなされることもあった。そしてその後に本文が直ぐに続き、別ページ立てになることはなかった。15世紀後期になると、扉という工夫を見かけるようになる。書き始め語そして本文という形式から独立し、別ページ立てで、簡略な内容説明文が示されるようになる。扉ページの始まりである。このページは様々な形で表示されるので、扉表示の歴史を振り返り、なぜこうした表示をするのか、その理由の解明を試みる。

２．扉表示の種類

扉の表示形式は大別すると、次の4種類に分けることが出来る。木版、囲み飾り、活字、刻版である。これらがどんな表示をしているかを見てみよう。

Ａ．木版

木版を使った扉表示には「木版書名」、「木版書名＋木版の絵」、「活字書名＋木版の絵」の3種類がある。

Ａ－１．木版書名

これは書名を木版で表示する形である。図2－1のように、書名の冒頭の1文字だけを特別に大きな木版にして飾っているヴェラール（A. Verard）のような例もあるが、多くの印刷者は、図2－2のように、書名全体を同じ調子で示している。

Ａ－２．木版書名＋木版の絵

木版の書名と木版の絵を併用する形であり、これには両者を別々に彫って併用する形（図2－3）と、一枚の版木に2つを同時に彫った形（図2－4）の二種類がある。この形だといずれも扉ページはかなり埋め尽くされていることがわかる。

Ａ－３．活字書名＋木版の絵

図2－5のように、これは書名を活字で示し、そこに絵を併用する形である。当初は本文と同じ大きさの活字で書名を示すため書名を複数行で示し、非常に大きな活字の代用表示をしていた。

以上から分かるように、書名を木版で示すと、インパクトが非常に強いので、どんな書名かが直ぐに理解できる。しかも書名の文字数が少ないので、ごちゃごちゃした感じがしないという利点もあった。

こうした利点はあったが、木版の書名が使われた期間は長くない。しばらくすると木版書名は廃れていく。当初は大型の木版書名が使われていたが、しだいに木版ほど大きくはないが、本文活字より大型の活字が使われるようになり、活字で複数行を表示することによって大型の木版書名に取って代わる。加えて木版書名は固有の作品名を示すため、他の作品に使い回すことは出来ない。汎用性にも富んでいない。木版書名が使用されなくなった原因には経費の軽減化も含まれていたはずである。

Ｂ．囲み飾り

囲み飾りとは扉ページ全体を囲んだ飾りのことである。飾りには寓意、神話、聖書などを題材にした図柄や、花柄、建築様式さらには印刷所内で

所有する罫線などを見かける。中心部分は縦長の形が多いが、図３−２に示すようなハート型や、楕円形等にして特徴を出している場合もある。しかしそうした場合は活字の表示できる面積は小さくなる。いずれにしても囲み飾り形は扉ページ全体を囲むのが特徴である。そして書名を「囲む」と言う点からすれば、この表示は１種類しかない。

囲み飾りは、絵画で言えば、額縁にあたる。表示する書名は違っても、同じ囲み飾りを見かけるからである。当初は特定の本用に彫られていても、後には別の本にも使われるので、特定の書名専用の飾りとして限定使用されることは少ない。囲み飾りのデザインを工夫するのが大変なことから、特定の出版社や印刷所が使い回すだけでなく、珍しい囲み飾りは国を超えて模倣された。

例えばドイツのハンス・ホルバイン二世（Hans Holbein the younger）の彫ったリヴィウスのローマ史に由来する囲み飾りはフローベン（J. Froben）が1516年に初めて使用し、その後、別の作品（図２−６）にも使い回されている。そしてイギリスではピンソン（R. Pynson）や、図２−７（The myrrour or glasse of Christes passion）に使ったレドマン（R. Redman）など、計５人が模倣借用している（注２−１）。特定本用の図柄でさえ、後には別の本に使い回されている。これでは図柄固有の特徴が生きてこない。こうした使い方をしているくらいであるから、一般的で、特徴のない図柄では扉表示になんの特徴も見いだせない。例えば、イギリスの印刷者バセレット（T. Berthelet）は図２−８の囲み飾り及び類似の飾りを60回も繰り返し使用している（注２−２）。そして図２−９のように、罫線で囲む例も良く見かける。囲み飾りは彫るのに手間と費用がかかることから、印刷所内のもの（罫線）で簡便に済まそうとする様子がうかがえる。囲み飾りは、一見、特徴のある扉表示に見えるが、この飾りも結局は固有の「装飾」と言うより、扉のスペースを埋める目的で用いられた埋め草のように見える。

Ｃ．活字

扉を表示するのに最も簡便で、しかも繰り返し使えるのが活字である。活字を使った扉表示は当初から見かける。図２−10では少し大きい活字で書名を表示すると共に、追加表示さらには出版事項も活字で表示している。活字は余分な経費を掛けないで、且つ繰り返し使えるので、扉表示には最も便利な表示手段と言える。そして活字を使っていても、扉全体の埋められている様子がうかがえる。

Ｄ．刻版

刻版は16世紀の後半頃から使われ始める。当初は刻版の扉が単独で使用されるが、17世紀にはいると、図２−11のように、刻版と活字の扉ページが併用されるようになる。刻版は活字印刷と比べて印圧が異なるので、同時に刷ることが出来ない。刻版は四隅にプレート・マークという印圧の跡が見られるので、活字印刷とは容易に識別できる。文字も示されているが、この文字書体は活字ではなく手彫りのために手間がかかる。そのため長い語句で表示されることは少ない。活字表示の扉が併用されるのはその欠点を補うためかも知れない。とすれば刻版の扉ページは完全な飾りページになってしまう。刻版の扉は全体が絵であるから、扉全体は埋め尽くされていることになる。

３．扉表示の略史

この頃では15世紀から19世紀までの扉を例示する。しかし各時代とも１例しか示していないので、時代を代表した図というわけではない。最初は刊本で最初の扉と言われている「トルコへの十字軍派遣の勅書」（図３−１）であり、1463年のことである。扉は1480年代から使われ始めるので、1463年の扉は例外の表示に近い。16世紀では聖書の誤植でしばしば引用される「ズボン聖書」（1560年）（図３−２）である。この例では扉が囲み飾りに囲まれている。17世紀の例はシェイクスピアの「第一・二折本」（1623年）（図３−３）であり、シェイクスピアの肖像画（刻版）で飾られている。18世紀の例に挙げたコミーヌの『回顧録』（1712年）（図３−４）は罫線枠で囲まれている。この世紀にはその他にも『ガリバー旅行記』（1726年）や『ロ

ビンソーン・クルーソー』（1719 年）といった旅行記にも罫線枠が使われている。重厚な囲みが廃れ、簡便に囲んで飾ろうとする傾向がうかがえる。同じ世紀であるが、ルモワンヌ（H. Lemoine）の『印刷術』（1791 年）（図 3－5）では扉が活字だけで示されている。印刷術関係の本であっても、ページは活字で溢れている。その点では 1826 年に出た『ジョンソン伝』（図 3－6）の場合も同じである。そして最後は 20 世紀であり、図書館員や書誌学の研究家によく知られているギャスケルの『書誌学新入門』（1972 年）（図 3－7）である。ここでやっとすっきりとした表示を見かけるようになる。

前項と本項で示した図とその年代からわかるように、扉の表示スタイルは時代によってきれいに使い分けられたわけではない。しかし傾向があるとすれば、囲み飾りは初期から 17 世紀頃までであり、その後は重厚な囲み飾りは廃れていく。唯一使い続けられたのが罫線枠である。刻版の扉は使い始めが 16 世紀中葉と遅いばかりでなく、17 世紀末には早くも廃れ始める。その点、安定して使い続けられれるのが「活字」と「活字と絵」と言える。ただし「絵」とは印刷者や出版社マークである事が多い。

扉の歴史にとって、17 世紀は最悪の世紀であった、と言われている。それは扉が出版社の広告ページとみなされ、このページを切り離して貼り付けるために派手な表示になったからだと言われている（注 3－1）。そして 18 世紀に入ると、その反動であろうか、表示はより簡素なものに代わっていく（注 3－2）。しかし図 3－4 や図 3－5 さらには図 3－6 を見ると、18、19 世紀の本であるにもかかわらず、扉ページがぎっしりと活字で埋め尽くされている。印刷史や図書史の本が言っているほど 18、19 世紀の扉表示がそれほどすっきりしていたわけではない。むしろ 17、18 世紀と続いていく間に扉表示が簡素になっていったと見るべきではないだろうか。

4．20 世紀の扉表示

そして 20 世紀に入ると扉表示が実作品で示されるだけでなく、言葉でも述べられるようになる。1901 年にニューヨークのグロリエ倶楽部でヴィニ（T. L. de Vinne）は「扉」と言う題で講演し、活字、余白などの点から扉表示について述べ、後に *A treatise on title-pages*（New York, Haskell House,, 1972）として出版される。1924 年にモリソン（S. Morison）は *Four centuries of fine printing* を出す。彼もやはりローマン体という「活字」で刷った美本について実例を示し、各本の代表例は扉ページが最適だと言って、扉ページを列挙している（注 4－1）。彼が扉ページを本文ページの活版印刷上の特徴を示したページと見なしていることは明らかである。しかしその理由は示していない。

1928 年になると、ジョンソン（A.F. Johnson）は *One hundred title-pages, 1500-1800* を出し、19 世紀までの扉表示を簡略に辿っている。その中で彼は「17 世紀は活版印刷術上で最悪の世紀であり、…ごちゃごちゃした扉表示はよく知られる例である」（注 4－2）そして 18 世紀に入ると、「扉表示はとても簡素になり、活字書体はかなり軽やかになる」（注 4－3）と言った。

1932 年になると、扉の囲み飾りだけに焦点を当てた本が出る。マッケローとファーガソン（R.B. McKerrow and F.S. Ferguson）の *Title-page borders used in England and Scotland, 1485-1640*（London, Printed for the Bibliographical Society at the Oxford University Press, 1932）である。この本でも扉を例示するが、目的は囲み飾りを網羅することにある。

同じ年にオリバー・サイモン（O. Simon）は「扉」という論文を書き、次のように言っている（注 4－4）。

> 扉は作品の主題とか、書名、及びその著者名を伝える機能を果たしているだけでなく、その本の活版印刷上の扱い全般にわたる傾向を示している

サイモンの言葉をさらに具体的に展開したのがスタインバーグ（S.H. Steinberg）である。

> 「…という名の本」や「の計画した」とか、著者の爵位を重ね重ね強調するような婉曲な表現は現在ではまさに不必要なひだ飾りとみなされ、扉はそうしたもののないほうがはる

かに良いとされている。同じ事はトマス・スタンリの『哲学史』第2版、即ち1687年の副書名にもいえる。「あらゆる学派の哲学者の伝記、意見、行動及び論文の入った」『哲学史』、これは明らかに主書名で暗示していることを詳しく述べたにすぎない。書名を簡潔で、自明なものとすると共に、扉の活版印刷術と本文 ― そしてある程度は主題内容 ― の活版印刷術とを一致させること、この二点は近代活版印刷術の分別と感受性をよく表している（注4－5）。

図4－1などは肩書きをこれでもかと重ねて表示し、異端審問官（Carpzov）の権威を強調している。ドイツの法学書はこうした表示をすることが多い。これほどひどい表示ではないが、肩書きの羅列をスタインバーグが嫌っていることは前述した通りである。

書名の表示方法については、

文芸復興期の几帳面な無味乾燥さに始まり、ネンリズム作家時代のくどい教訓癖時代を通過し、そして、三角形、六角形、砂時計などの風変わりな図柄を配置したくだらない書名装飾を頂点にして、それをさらに技巧化したレイアウトをしたバロック時代の饒舌さへとしだいに変化していく…

活版印刷術の真の基礎として受け入れられることになる原理とは付加的な挿絵を除くと、本の各ページは、植字ケースに入っているものだけで組むようにしなければならないという点である。…バスカヴィル、ディド及びボドーニといった人々を代表とする『古典』学派の活版印刷者が台頭してくると、純粋な活版印刷術的な標題紙が勝利を収め、木版や凹版の大半はまがいもの的で、古風なたぐいの珍奇な産物として追いやられてしまった（注4－6）。

そしてスタインバーグは最後にエリオットの1534年版 The Governor（図4－2）を例にして、現代であれば図4－3のように表示すると言った（注4－7）。彼等二人の発言はかなり独断的と思えるかも知れないが、決してそうではない。むしろ扉表示に対する20世紀以降の共通認識と見てよい。

5．なぜ簡素な表示なのか？

扉とは簡素で、かつ活版印刷上の特徴を示す必要があると、彼等は言う。「簡潔さ」が求められる理由については前述した通りである。しかし彼等はなぜ昔の扉表示が「ページいっぱいに表示」してきたのかを解明しなかった。というより「ページいっぱいの表示」を「表示の仕方（方法論）」に歪曲化し、「表示目的」の問題として捉えなかったのである。そして「活版印刷術上の特徴を示す」という主張に対しては、なぜそうするのか、その理由すら示していない。にもかかわらず、現代の本は彼等の主張に沿った扉表示をしている。

この答を出すには扉ページの定義を見てみる必要がであるが、上記のような問いに答えられるような定義はない。というより、これまではこの疑問を発する人さえ出てこなかった。その中で、唯一、マーガレット・スミス（Margaret Smith）はその点に気付き疑問を投げかける。しかしスミスはその根拠を写本に求めすぎた。そして答が見つからないことから、扉ページの「スペースを印刷者がなぜいっぱいに埋め始めたのか、その理由が正確に解明されることはないだろう」と匙を投げてしまう（注5－1）。

6．扉ページを「ページいっぱいに表示」

扉という新しい工夫が誕生すると、このページをどう表示するかが問題となるはずである。その時、手本となれるのは本文ページしかなかった。本文ページとは文章によって内容を伝えるページであり、無駄な余白を作る必要はない。本文ページは本文をページいっぱいに表示しているページである。そして本文ページはどのページも同じ活版印刷様式で示されている。こうしてみると、本文ページとは次の2条件で表示されているページと言うことになる。

1．ページいっぱいに表示
2．本文ページはどのページも同じ活版印刷術で表示

そこで扉ページを本文ページと比較してみよ

う。図５−１と図５−２は扉とその本文ページである。両者の表示部分が一致していることが分かる。扉ページは本文ページを模倣したのである。というより扉ページも本文ページと見なされていたのではないだろうか。扉ページをこのように見なせば、扉ページは「ページいっぱいに表示」する必要があるし、本文ページの様式で表示しなければならない。

ところが書名は文字数が少ない。扉ページを「ページいっぱいに表示」にするためには、工夫が必要である。木版の書名、木版の絵、囲み飾りさらにはいっぱいの活字とは扉ページを埋めるための埋め草だったのである。

木版の絵や囲み飾りを使わない場合は別に工夫を考えなければならない。しかしページを活字でまともに埋めようとすると、ページが活字で溢れて重苦しい。それに対する答が活字を使った図柄表示である。絵とは木版や囲み飾りだけではない。図６−１を見ると、書名が逆三角形で示されている。その上、周りは余白だらけで埋められていない。逆三角形も絵である。活字を使っていても、図柄になっていれば、絵であることに代わりはない。絵であればページいっぱいの表示をしなくて済む。スタインバーグが活字を使った図柄表示を「くだらない書名装飾」だと一蹴したが、単なる遊びで使われたわけではないことは明らかである。

扉ページとは本文ページである。この条件を十分に理解して、扉は表示する必要がある。

注

２−１. McKerrow, R.B. & F.S. Ferguson. *Title-page borders used in England & Scotland, 1485-1640*. London, Printed for the Bibliographical Society at the Oxford University Press, 1932. pp.6

２−２. 高野　彰『英語本の扉』東京、朗文堂、2015年。p. 117.

３−１. Binns, N. *An introduction to historical bibliography*. 2nd ed., rev & enl. London, Association of Assistant Librarians, 1962. p.2154-1. S. Morison. *Four centuries of fine printing*. New York, Barnes & Noble, 1960. p.5

３−２. Johnson, A.F. *One hundred title-pages, 1500-1800*, selected and arranged with an introduction and notes by A.F. Johnson. London, John Lane the Bodley Head, 1928. p.xiii.

４−１. Morison, S. *Four centuries of fine printing : one hundred and ninety-two facsimiles of pages from books printed at presses established between 1465 and 1924*. With an historical introduction by Stanley Morison. New edition New York, Barnes & Noble [1960] p.5.

４−２. Johnson, A.F. *op. cit* p. xiii

４−３. *ditto*. p. xiv

４−４. Simon, O. 'The title-page' The *Fleuron*. no.1（1932）p.96

４−５. スタインバーグ、S.H. 著、高野彰訳『西洋印刷文化史：グーテンベルクから500年』東京、日本図書館協会、1985年　pp.166.

４−６. *ditto*. p.163.

４−７. *ditto*. p.164-5.

５−１. Smith, M.M *The title-page; its eary development, 1400-1510*. London, The British Library & Oak Knoll Press, 2000. p.89.

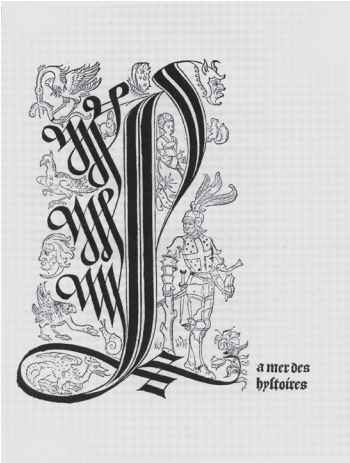


図 2−1　書名の 1 文字が木版
（A. Verard. La mer des hystoires, 1488 年）

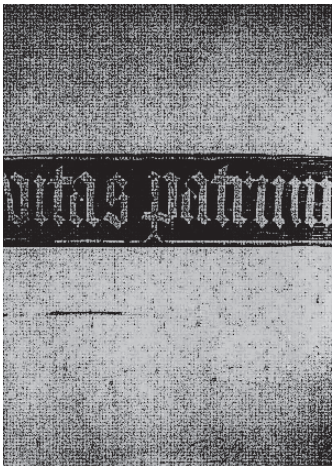


図 2−2　木版書名
（Jerome. Vitas patrum, 1495 年）

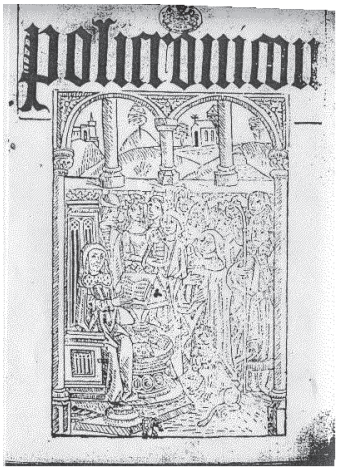


図 2−3　木版書名＋木版の絵
（R.Higden.　Policronicon, 1495 年）

図 2−4　書名と絵を 1 枚の木版で表示
（H. Parker. Dives & pauper, 1496 年）

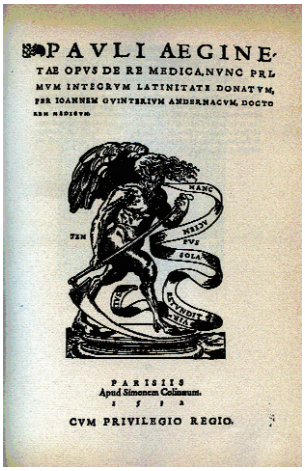


図 2−5　活字書名＋木版の絵
（P. Aegineta. Opvs de re medica, 1532 年）

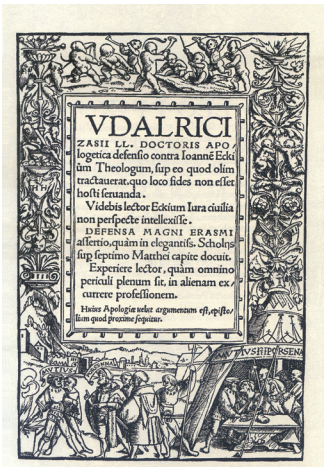


図 2−6　H. Holbein younger の囲み飾り
（U. Zasius..LL. Doctoris Apologetia....1519 年）

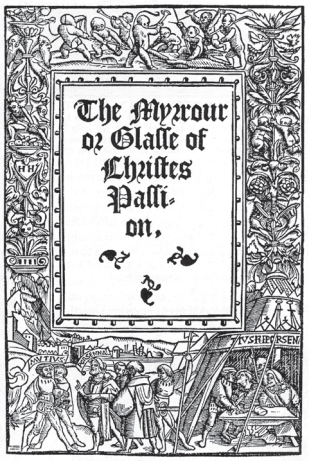


図２−７　R. Redman が模倣
（The myrrour or glasse..., 1534 年）

図２−８　T. Berthelet が重複使用した囲み飾り
（The assaute and conquest of heuen,1529 年）

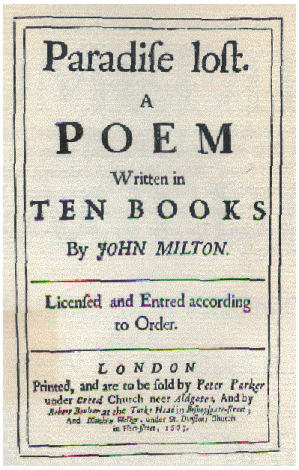


図２−９　罫線の囲み飾り
（J. Milton. Paradise lost, 1667 年）

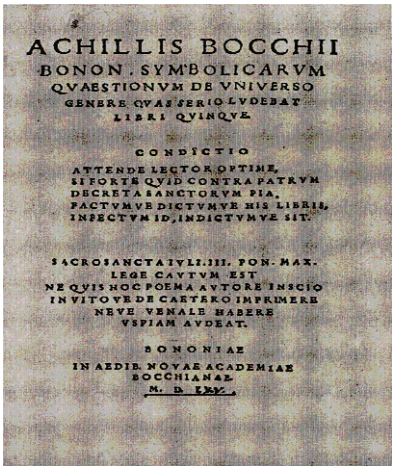


図２−10　活字だけの扉表示
（A. Bocchi. Symbolicae quaestiones, 1555 年）

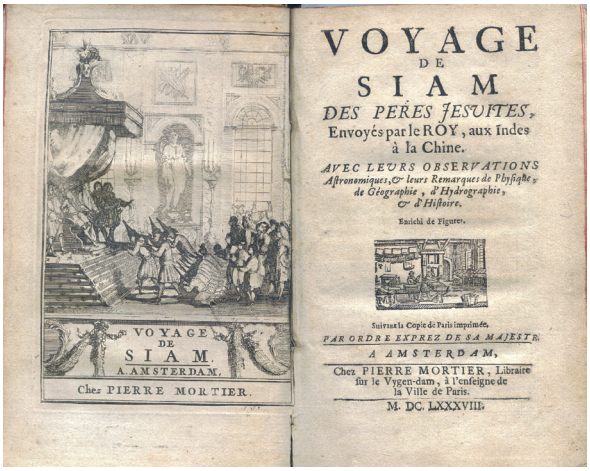


図２−11　刻版の扉と活字の扉
（Voyage de Siam... 1688 年）

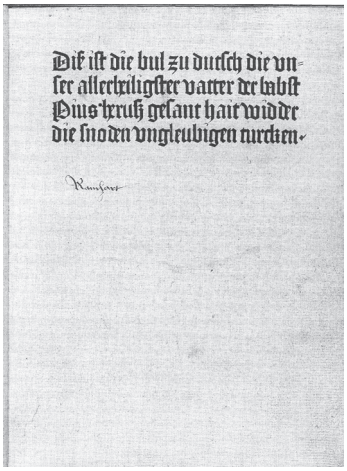


図３−１　15 世紀の扉
（Bulla cruciata contra turchos, 1463 年）

THE
BIBLE,
THAT IS:
THE HOLY SCRIPTVRES
conteined in the Old and New
TESTAMENT
IMPRINTED AT LONDON
1599.

図 3−2　16 世紀の扉
（The Geneva Bible. 1599 年）

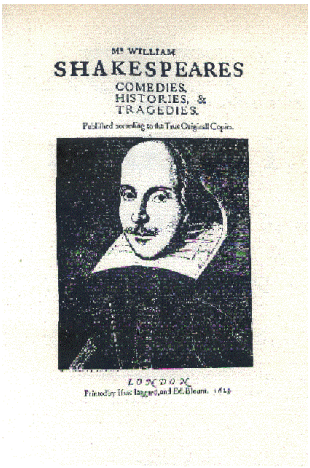

Mr. WILLIAM
SHAKESPEARES
COMEDIES,
HISTORIES, &
TRAGEDIES.
Published according to the True Originall Copies.
LONDON
Printed by Isaac Iaggard, and Ed. Blount. 1623

図 3−3　17 世紀の扉
（W. Shakespeare. 第一・二折本 , 1623 年）

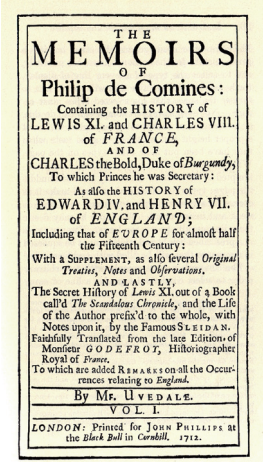

THE
MEMOIRS
OF
Philip de Comines:
Containing the HISTORY of
LEWIS XI. and CHARLES VIII.
of FRANCE,
AND OF
CHARLES the Bold, Duke of Burgundy,
To which Princes he was Secretary:
As also the HISTORY of
EDWARD IV. and HENRY VII.
of ENGLAND;
Including that of EUROPE for almost half
the Fifteenth Century:
With a SUPPLEMENT, as also several Original
Treaties, Notes and Observations.
AND LASTLY,
The Secret History of Louis XI. out of a Book
call'd The Scandalous Chronicle, and the Life
of the Author prefix'd to the whole, with
Notes upon it, by the Famous SLEIDAN.
Faithfully Translated from the late Edition of
Monsieur GODEFROY, Historiographer
Royal of France.
To which are added REMARKS on all the Occur-
rences relating to England.
By Mr. UVEDALE.
VOL. I.
LONDON: Printed for JOHN PHILLIPS at
the Black Bull in Cornhill. 1712.

図 3−4　18 世紀の扉
（Comines. The memoirs, 1712 年）

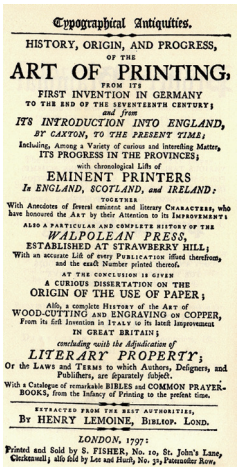

Typographical Antiquities.
HISTORY, ORIGIN, AND PROGRESS,
OF THE
ART OF PRINTING,
FROM ITS
FIRST INVENTION IN GERMANY
TO THE END OF THE SEVENTEENTH CENTURY;
and from
ITS INTRODUCTION INTO ENGLAND,
BY CAXTON, TO THE PRESENT TIME;
Including, Among a Variety of curious and interesting Matter,
ITS PROGRESS IN THE PROVINCES;
with chronological Lists of
EMINENT PRINTERS
In ENGLAND, SCOTLAND, and IRELAND:
TOGETHER
With Anecdotes of several eminent and literary CHARACTERS, who
have honoured the ART by their Attention to its IMPROVEMENT:
ALSO A PARTICULAR AND COMPLETE HISTORY OF THE
WALPOLEAN PRESS,
ESTABLISHED AT STRAWBERRY HILL;
With an accurate List of every PUBLICATION issued therefrom,
and the exact Number printed thereof.
AT THE CONCLUSION IS GIVEN
A CURIOUS DISSERTATION ON THE
ORIGIN OF THE USE OF PAPER;
Also, a complete HISTORY of the ART of
WOOD-CUTTING AND ENGRAVING ON COPPER,
From its first Invention in ITALY to its latest Improvement
IN GREAT BRITAIN;
concluding with the Adjudication of
LITERARY PROPERTY,
Or the LAWS and TERMS to which Authors, Designers, and
Publishers, are separately subject.
With a Catalogue of remarkable BIBLES and COMMON PRAYER-
BOOKS, from the Infancy of Printing to the present time.
EXTRACTED FROM THE BEST AUTHORITIES,
By HENRY LEMOINE, BIBLIOP. LOND.
LONDON, 1797:
Printed and Sold by S. FISHER, No. 10, St. John's Lane,
Clerkenwell; also Sold by Lee and Hurst, No. 32, Paternoster Row.

図 3−5　18 世紀の扉
（Lemoine, H. Art of printing, 1791 年）

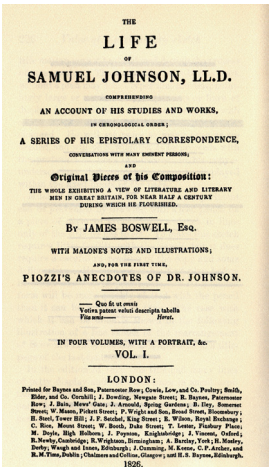

THE
LIFE
OF
SAMUEL JOHNSON, LL.D.
COMPREHENDING
AN ACCOUNT OF HIS STUDIES AND WORKS,
IN CHRONOLOGICAL ORDER;
A SERIES OF HIS EPISTOLARY CORRESPONDENCE,
CONVERSATIONS WITH MANY EMINENT PERSONS;
AND
Original Pieces of his Composition:
THE WHOLE EXHIBITING A VIEW OF LITERATURE AND LITERARY
MEN IN GREAT BRITAIN, FOR NEAR HALF A CENTURY
DURING WHICH HE FLOURISHED.
By JAMES BOSWELL, Esq.
WITH MALONE'S NOTES AND ILLUSTRATIONS;
AND, FOR THE FIRST TIME,
PIOZZI'S ANECDOTES OF DR. JOHNSON.
— Quo fit ut omnis
Votiva pateat veluti descripta tabella
Vita senis —— Horat.
IN FOUR VOLUMES, WITH A PORTRAIT, &c.
VOL. I.
LONDON:
1826.

図 3−6　19 世紀の扉
（Boswell. The life of Samuel Johnson, 1826 年）

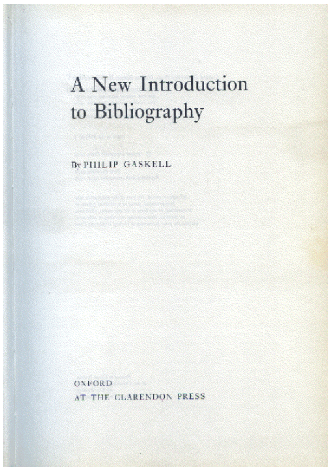

A New Introduction
to Bibliography
By PHILIP GASKELL
OXFORD
AT THE CLARENDON PRESS

図 3−7　20 世紀の扉
（Gaskell. A new introduction to bibliography, 1972 年）

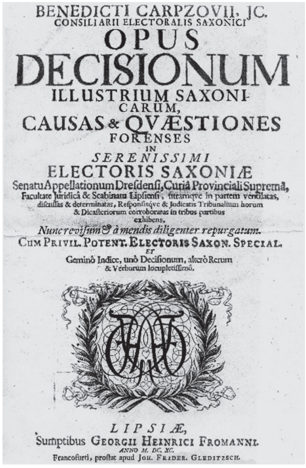

BENEDICTI CARPZOVII, JC.
CONSILIARII ELECTORALIS SAXONICI
OPUS
DECISIONUM
ILLUSTRIUM SAXONI-
CARUM,
CAUSAS & QVÆSTIONES
FORENSES
IN
SERENISSIMI
ELECTORIS SAXONIÆ
Senatu Appellationum Dresdensi, Curiâ Provinciali Supremâ,
Facultate Juridicâ & Scabinatu Lipsiensi, utramque in partem ventilatas,
discussas & determinatas, Responsisque & Judicatis Tribunalium horum
& Dicasteriorum corroboratas in tribus partibus
exhibens,
Nunc revisum & à mendis diligenter repurgatum.
CUM PRIVIL. POTENT. ELECTORIS SAXON. SPECIAL.
ET
Geminô Indice, unô Decisionum, alterô Rerum
& Verborum locupletissimô.
LIPSIÆ,
Sumptibus GEORGII HEINRICI FROMANNI.
ANNO M. DC. XC.
Francofurti, prostat apud JOH. FRIDER. GLEDITZSCH.

図４−１　Carpzov, B. *Opus decisionum*, 1690 年

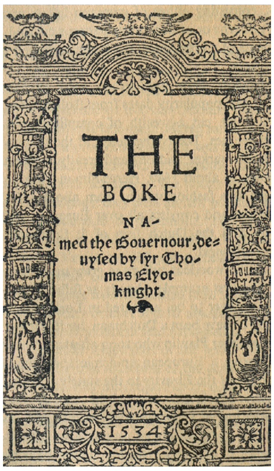


図４−２　Eliot, T. The governor,1534 年

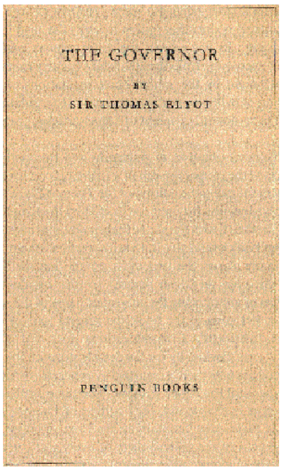


図４−３　図４−２の現代版の扉

図５−１　Garlandia *Synonima*, 1505 年の扉

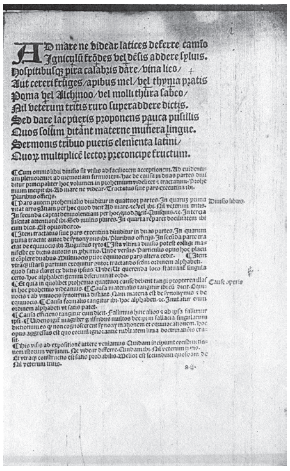

AD mare ne videar latices deferre camis
Igniculu frondes vel densis addere syluis.
Hospitibusq pira calabris dare/vina lieo/
Aut cereri fruges/apibus mel/vel thymia pratis
Poma vel Alchinoo/vel molli thura sabeo/
Nil veterum tritis ruro superaddere dictis.
Sed dare lac pueris proponens pauca pusillis
Quos solum ditant materne munera lingue.
Sermonis tribuo pueris elementa latini/
Quorum multiplicem lector preconcipe fructum.

図５−２　図５−１の本文ページ

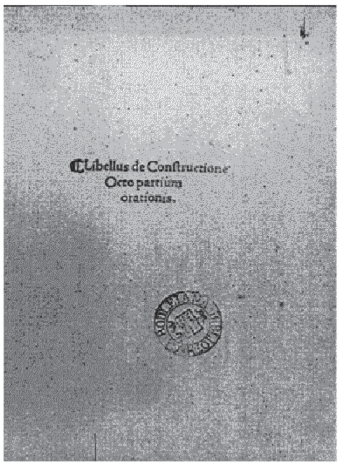


図６−１　Lily, W. *Libellus de constructione*
octo partium orationis, 1513 年

講 演 要 旨　第 68 回（2014 年度）東海地区大学図書館協議会研究集会（2014.8.1）

大学図書館にも親しみやすさを ── まず玄関を入ったあたりから

どうしたら親しみがもてて心地よいものがつくれるか
── ウォーレン・マッケンジー ──

図書館づくりと子どもの本の研究所代表
平 湯 文 夫

皆さん、こんにちは。ご紹介いただきました、長崎の平湯です。

名古屋といいますと、私ども長崎に住む者から見ますと、3分ごとに新幹線が走るという、もう夢のようなところです。長崎は、もちろん新幹線など通っていません。博多から特急に乗り換えて2時間、やっと長崎駅に着きます。降りて改札口のほうへ歩きますと、特急「かもめ」号の先端のところで、ＪＲのレールは終わっています。そんな「ＪＲのレールも果てる」日本の西の果てで、１人でやってきました私に声をかけていただいて、本当に光栄といいますか、とても嬉しく、今日はやってまいりました。

ところで、これからの私の話は、情報学の進んだ今日では、古典的図書館学ということになるのかもしれません。しかも、先ほど司会の内藤先生にばらされてしまいましたように、私はずいぶん高齢で、図書館学を教えていました現役をリタイアしまして20年にもなりますので、図書館のうごきからとり残されてしまった感もしきりです。図書館の中でも先端を行く大学図書館のみなさんにきいていただけるような話ができるのか大変心もとないところです。

私の図書館学は、図書館利用を全市民、全学生に広げていくことです。

本論に入っていきます。図書館というものは、ずいぶん多様な面をもっていると思います。一つは、歴史的なもの、古いものの研究に備えるもの、それから科学技術など、先端を追い求めるもどいろいろな面があると思います。

それらの中で、私の図書館学は、本や情報にまだあまりなじみのないたくさんの人たち、そういういわば底辺へ図書館利用をかぎりなく広げていこうというものです。本好きや研究者を大切にすることは勿論大切ですが、その何倍、何 10 倍の子どもや大人や学生は、まだ読む楽しみや調べる喜びを、十分には知らないままだと思っていますので、そのたくさんの人たちを図書館利用に誘いいれることは、なにより、大切なことではないかと思っているわけです。私は、そんなことについて研究、教育、実践をつづけてきました。

そして今回、「利用したくなる図書館 ──」というテーマの研究集会にお誘いをうけましたとき、10 数年前、『情報の科学と技術』誌に書きました同じテーマの小さな論文（資料として差上げてあります）のことを思い出しました。

大学図書館が、教授、院生、学術資料中心で、大多数の一般学生をないがしろにしていると思いつづけていましたから、図書館を学生たちのものにする手立てをのべてみたものです。

さて、お引受けはしたものの、近年あまり大学図書館を訪ねていませんでしたので、あらかじめ、会長館の名古屋大学と会場館のこの中部大学の図書館を見学させていただきました。

名古屋大学のラーニングコモンズと120万冊の全開架に驚きました。

玄関を入ったところのラーニングコモンズのフロアといってよろしいのでしょうか、大改修を終えたばかりということで学生たちであふれていました。案内してくださった館員の方たちも誇らしげに見えました。その上の階に、公共図書館でいうポピュラーライブラリーがしっかり設けられ、その上の階や地下のリサーチライブラリーも、集密書架も含めて、中央館の 120 万冊が、貴重書以

外はすべて開架というりっぱさでした。

このポピュラーライブラリーもまた、すべての大学図書館にぜひ設けてほしいものです。

次に訪ねましたこの中部大学も書庫も自由に利用できるということで、全学生に開かれた図書館にしようという思いがあふれていました。

この、開架ということは、図書館の基本的なことだと思いつづけてきました。今でも、大学図書館も県立図書館なども、大半の資料を閉架にすることを当然としているところが多いように思います。自動化書庫などもう論外です。現物を手にとって見れないどころか、分類、テーマごとに体系的に配架された資料の背表紙を眺めることすらできない図書館は、研究者中心どころか、現物そのものを、そして関係資料にかたまりとして触れることから生まれる知る喜びを排除してしまうもので、図書館の自殺行為だと思っています。

ＵＣＬＡの厖大な資料の開架に感動しました。

もう40年近くも前、初めて訪ねた海外のＵＣＬＡ（カリフォルニア州立大ロサンゼルス校）の中央図書館のことが忘れられません。その３階から上だったでしょうか。スタックとあったので、書庫かと思って入っていくと、1辺数10米もあろう書架ばかりの広大な部屋が、自由に入れ、各フロアにしっかり図書館員がいて、親切に相手をしてくれたのにふしぎな感動を覚えました。そこには、図書館資料は、原則すべて手のとれるようにするという基本姿勢があったように思います。

あれから40年、今、資料の激増は世界中の図書館の問題ですから、全開架はむずかしくなったとしても、自動化書庫に入れざるをえない本の仕分けの見極めは不可欠でしょう。6年前にやっと開設された、私の住む県都である長崎市立図書館の書庫はすべて自動化書庫というのは許せないと思います。

こういった日本の図書館の開架や書庫の状況の中で、名古屋大学や中部大学の基本全開架の姿勢はりっぱだと思いました。

さらに、さきほど、この研究集会をおせわくださっている方々といっしょに昼食をいただきましたときの話題も、会長館の名古屋大学の館長先生はじめ、もっぱら、いかに全学生、全教職員に図書館に親しんでもらうかにあったように思いましたので、嬉しく思いました。

今日は、その全学生に親しんでもらう図書館づくりを施設面から話させていただきます。

私は、20年前にリタイアしましてからは、特に施設面、つまり、建物や家具、部屋づくりの面から、この、図書館利用の底辺を広げることに努めてきました。演題を「大学図書館にも親しみやすさを ── まず玄関のあたりから ─」としましたのは、大学図書館にかぎらず、公共図書館も学校図書館も、あまりに固く、つめたく、優しさに欠けている。せっかく木をとり入れてある場合も、固く、つめたいと感じています。人は、子どもから老人まで、みんな、まず優しさを求めているのにです。

演題の下に､「どうしたら親しみがもてて心地よいものがつくれるか」という、米国の陶芸家マッケンジーのことばをあげました。民衆の工芸に美を見出して、世界で初めて民芸学をうちたてた柳宗悦の流れをくむ人だそうです。氏は、製作にあたって一貫していたのがこの姿勢だったというのです。

私もまた、図書館の建物や家具の設計、開発にも部屋のレイアウトにも、いつも「親しみがもてて心地よいように」と心がけています。

では、実際にスライドで絵をご覧いただきながら、話をさせていただきます。

実は、私は、公共図書館で20館以上、小中高校の図書館で100館以上の、新改築、改修のプランニング、施工にあたってきましたが、大学図書館で目ぼしい施工経験がありません。そこで、学校図書館や公共図書館のスライドでご覧いただくことをご容赦ください。親しみがもてて心地よい図書館ということについては、大学図書館も公共、学校図書館も同じだと思っていますので、大学図書館に適用しながら、ご覧いただけると思っています。

なお、私が開発してきました図書館家具と、それを使って利用を促すように演出した館内のレイアウト法のことを「平湯モデル」とよばせていただきます。

1、長崎の活水中高校図書館の入ったところ

3年前に開館しました。まず、色を塗らない木地仕上げの木製家具であること。図書館の主役である本が、書架からあふれ出るような展示型の、さらに傾斜をつけた書架であること。床置きの書架がすべて視線をさえぎらぬ高さにしてあること。カウンターがバリケード型などでなく、低くやさしい湾曲型であること。カーペットが、グレーやブルーなどの寒色でなくピンクであること。観葉植物があることなどなど、既存の図書館とはずいぶんちがっているはずです。

2、京都の立命館小学校図書館

7年ほど前に開校しました、5教室分もある広い図書館を一枚の写真で見せようと特殊なレンズが使われています。入ったところから撮ったもので、左手に絵本とお話のコーナーがあり、今、読み語りをしているところです。上にトトロの縫いぐるみのついた天づりのサインがさがっています。

図書館の大切な二つの機能の一つ、読む楽しみのための「楽しみ読みのエリア」が手前に、調べる喜びのための『調べ学習のエリア』が奥にあります。全国放送や雑誌でも幾度もとりあげられましたから、ご存知の方もあろうかと思います。活水、立命館共に、これまでになかった、児童、生

徒に親しみやすい図書館ができたかと思いますので、実物のこれらの写真をよくご覧ください。

3、活水中高校図書館のアプローチと玄関

まず、ロケーションを生徒たちの生活動線の集まるところにしました。そして、コンクリートの無機質な建物を優しくするためにパイン材の簀の子掲示板を設け、最初にごらんいただいたスライドの楽しい館内がよく見えるように、全面シースルーの玄関にしました。

4、千葉県国府台女子中高校図書館の玄関

来客のための玄関もいっしょの生徒の昇降口を入ったところに、この、全面シースルーの図書館を設けました。

5、神戸の親和女子中高校図書館の入ったところ

今日のタイトルどおりの、まず入ったあたりから親しみやすく改修した中高校図書館の例です。入ったあたりを楽しくすることの大切さを分かっていただけたらと思います。

6、佐賀県小城市民図書館三日月館の湾曲絵本架

7、同上　子どものエリア

8、同上　大人のエリア

上の３枚の１枚目は、平置き２段、立差し１段、20 米の湾曲絵本架です。つづく２枚もいっしょに、書架というものは、このように、１万冊でも 10 万冊でも、全蔵書が、１冊１冊粒立って利用者の目にとびこみ、呼びかけてくるような、いわゆる展示棚でなければならないと思っています。既存の書架は、図書館専門メーカーのものも含めてすべて、季節はずれの衣類など、使わないものをしまっておくものに使う収納棚です。スライドをよくご覧ください。湾曲にもご注目ください。

平湯モデルの書架は壁面高書架以外はすべて傾斜書架であることもとても重要なことです。それも、スカート型など中折れでないことも大切なことです。

それから、床置き書架をすべて視線をさえぎらぬ高さにおさえてあることも大切です。まず、利用者にとって、入館したときから全館見通せるのは、なんといっても気持ちよく、また、全館すべて自分のものだから利用してやろうという気になることはとても大切なことです。

また図書館員にとっては、サービスと管理が断然しやすくなることも大きなメリットです。

書架を低くしたらキャパが足りなくなると思われるでしょうが、それはしっかりクリアされています。

９、国府台女子中高校図書館の湾曲大型本架

中庭に面したところで、この図書館のある一階分だけ湾曲にしてもらいました。これでぐっと優しい館内になります。そして、湾曲部分の窓下書架に、絵本、画集、写真集など、活字を読む本でない、絵や写真や図などをテーブルなどに広げて眺める大型の本を集めてあります。これで、図書館員を悩ませてきた、A4 を越える大型本の配架に困ることがほとんどなくなります。これも平湯モデルによる初めての試みのはずです。平湯モデルは書架をすべて固定棚にできるのも、こんな手だてがしてあるからです。

10、福岡県大木町立図書館

町の公民館を町立図書館に改修した例です。全国、どこにでもある、天井の低い、小さな部屋に分かれた公民館から、とれるだけ壁をとりはらい、中央部に吹き抜けをつくり、1、2 階を一体化して、そこに木のゆるやかな階段をつけて優しい町立図書館に面目一新したものです。階段を昇ると、次の写真のような子どものエリアがあります。

11、同上図書館２階の子どものエリア

（時間切れで話せなかったことを少し加えさせていただきます）

さて、「大学図書館にも親しみやすさを ── まず玄関を入ったあたりから ─」というタイトルで、スライドもご覧いただきながら話をしてきました。

話をきいていただくだけでなく、このタイトルどおり、もしみなさんの図書館を実際に見せていただき、スライドでご覧いただいたものを、大学図書館用に適用してとり入れたりしながら改修することができたらどんなに楽しかろうと思います。とりあえず、まず玄関あたりから、できればポピュラーライブラリーあたりまで。500万から1000万の予算でも、すっかり変えることができます。ご事情の許すところで、この地区で一館でも試みることができて、みなさんに見学していただけたらと思います。このあたりにもよくうかがっています。どうぞ気安くご相談ください。

〔質疑応答〕

〔司会（内藤）〕どうもありがとうございました。もっともっときいていただきたいのですが、あとは質疑応答というかたちでやらせてください。ご質問などまとめていただきますあいだに、私から質問させていただきます。

先生を紹介していただいた知人の井関さんから頂いた先生の本を読んでいるとき目にとびこんできたのは、「本は表紙が楽しい」ということばでした。それから本屋さんに行ってみますと、昔とちがって、背表紙だけでなく表紙を見せようとしていることを感じました。先生のその表紙を見せたいという思い入れについてもう少しお話ください。

〔平湯〕表紙は本の顔ですから、絵本は勿論、どんな本でも、子どもにも大人にも学生にも、できるだけ顔を見せてあげるようにしたいと思っています。それは、展示台や書架の天板などだけでなく、一般の棚の中にも平置きを混ぜたいと思っています。そして、平湯モデルの書架は、天板をなくしたり、棚の奥行きをぐっと浅くしたり、傾斜をつけたりして、書架そのものを、本を配架するだけで、デイスプレイになるように設計しています。

表紙を見せるどころか、背表紙の大切な著者名を、大きな3段ラベルで見えなくしているのなど許せないことです。小中学校の図書館まで大部分が3段ラベルを使っています。

1万冊か2万冊の学校図書館で、著者名をかくしてまで図書記号や巻冊番号が必要でしょうか。

49年前、日本の公共図書館に変革をもたらした東京西郊の日野市図書館は、現代小説はラベル全くなし、他もすべて一段ラベル。現在もそうです。

〔司会〕ではどうぞ。

〔島田（愛知大学）〕愛知大学の島田と申します。楽しいお話をありがとうございました。学校、公共、大学の図書館に詳しく、また図書館学を教えていらした先生が、これからの図書館員に期待していることをお聞かせください。

〔平湯〕私が、学生たちや研修会等で話してきましたことは、特に学校図書館や公共図書館では、図書館員にとっていちばん大切なことは選書力、そしてディスプレイ。そのあとに、お話やブックトークやリファレンスがあるということでした。一頃前まで、司書講習といえば、「分類と目録で鍛えられた」と言われていました。今は情報学が加わるのでしょうか。近年、大都市部では、公共図書館や学校図書館で新しい図書館奉仕をしてきた人などが、定年後、司書課程や司書講習で教えるようになる人も現れて少し変わってきたようです。

大学図書館でも、特にポピュラーライブラリーでは、学生たちの生き方を変えるような本、自分の真の専門に目ざめさせられる本に出会わせるような選書は、なにより大切なことかと思います。

子どもにも学生にも、その人生を創り上げていくような本を選んで蔵書にし、そしてそれらにめぐりあわせるようなデイスプレイやブックトークなどを図書館員として基本的に大切なことにしていただけたらと思っています。

私の古典的図書館学の基本でもあります。

ありがとうございました。

〔司会〕ではこのあたりで。またお話を伺わせてください。ほんとうにありがとうございました。

講 演 要 旨　　平成 26 年度東海地区大学図書館協議会研究集会（2014.8.1）

にぎわい・ふれあいの場としての図書館像
── 公共図書館と大学図書館での行動観察調査を通じて ──

愛知工業大学工学部建築学科准教授
中　井　孝　幸

はじめに

20 年間続けてきた地方都市の公共図書館と、ここ数年行っている大学図書館を対象とした来館者アンケート調査と館内利用の行動観察調査から、図書館利用者の利用意識や利用行動の変化を整理することで、これからの図書館像の方向性を考えていく。紙面の都合上、すべてのデータを載せることができないため、詳細は巻末の参考文献を参照して頂きたい。

１．地方都市における図書館利用

三重県、滋賀県、岐阜県の計 16 館で 1990 年代に行った来館者アンケート調査をもとに、利用圏域の広がりから各利用者層の図書館利用を整理する[1、2、3、5)]。

⑴　卵型利用圏域から利用圏域の二重構造へ

図書館の利用圏域は、栗原嘉一郎らの卵型利用圏域（図書館を挟んで都心に近い側と逆側では図書館と都心への向きが異なるため図書館までの距離に対する抵抗感に差が生じ都心方向とは逆側に広がる）が有名であるが、利用圏域の範囲は 1.5～２km程度であった。

一方、地方都市で半径 1.5kmごとに図書館を設置することは困難であり、地方には地方の計画論が必要となる。そこで、三重県や滋賀県、岐阜県など地方都市の図書館を対象に、栗原氏らと同様の利用圏域を求めると、各館固有の広がり方を示し、「館近傍の距離の影響を強く受ける利用」と「距離の影響をあまり受けない基礎的な図書館に対する需要による利用」の二つの利用者層に分けられる「二重構造」になることを明らかにした（図 1）。

⑵　マイカー利用と家族連れ利用の増加

図書館に近い利用者と遠く離れた利用者で、利用目的や利用頻度を比較しても距離による差はなかった。図書館に近い利用者層は徒歩や自転車が多いが、全体では約 7 割が自家用車で来館するなど、車での利用が距離に対する抵抗感を軽減している。

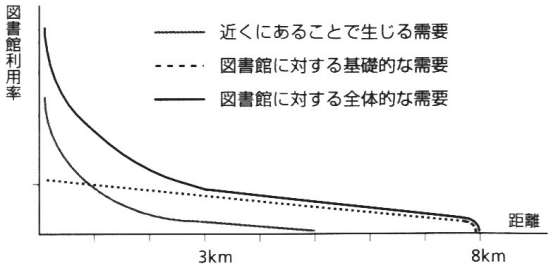


図 1　利用圏域の二重構造のモデル図

来館者の同伴形態を「単独利用」「家族同伴」に分け、属性を小学生以下の「児童」、中高大学生の「学生」、20 歳以上 65 歳未満の「有職男」「有職女」「主婦」、65 歳以上の「高齢者」の 6 つに分類した（表 1）。単独利用と家族同伴は、全体で 50%ずつを占めている。児童、有職男、主婦、学生が概ね 20～25%を占めている。学生、有職男女、高齢者は単独利用が多く、児童、主婦は家族同伴が多い。高齢者は男性が多くなっている。

表１　６つの利用者属性と同伴形態との構成割合

属性	人数	(%)	
児童	2056	26.3%	
学生	1344	17.2%	
有職男	1792	23.0%	
有職女	674	8.6%	
主婦	1624	20.8%	
高齢者	317	4.1%	
合計	7807	100%	単独利用51%、家族同伴49%

凡例　■:単独利用　□:家族同伴

各利用者層の利用圏域の広がりは、①徒歩や自転車が多い児童単独と学生の利用圏域は 1.5kmま

での範囲は高い施設利用率を示すが、3㎞までしか広がらない近くにあることで生じる需要による利用者層である。②来館者の約15％を占める有職男単独は、館近傍で施設利用率が高くならず、距離の影響を受けないで蔵書冊数に応じて利用圏が広がり、施設サービス自体に魅力を感じている基礎的な需要による利用者層といえる。③家族連れの中心である児童＋主婦は車利用にもかかわらず、3㎞以内の最寄りの図書館を利用するなど主婦層は施設サービスというよりもまず近さを優先するが、近くにない場合は遠くの図書館を利用している（図2）。

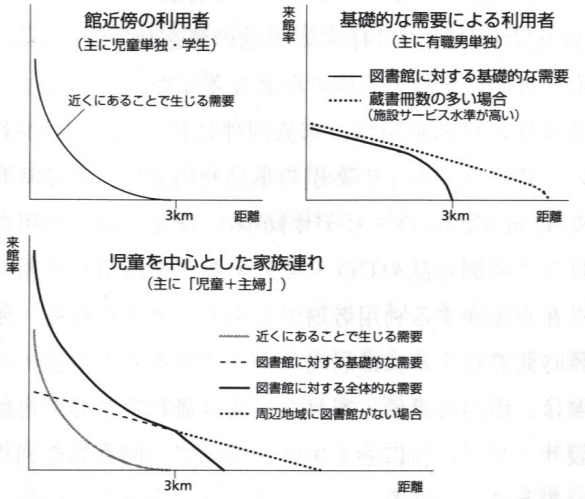


図２　各利用者層の利用圏域のモデル図

各利用者層による図書館の使われ方をみると、単独利用者は滞在時間が長く、学生は勉強目的の利用も多く最長。有職男単独と高齢者は週に数回が4割近い常連客で、家族同伴は貸出期間の2週間に1回が多い貸出利用が主な利用者層である。また有職女と主婦はあまり差がなかった。児童単独と有職男単独は、滞在時間も長く、新聞雑誌やCD・ビデオの利用が多く、館内での滞在を志向し、単独利用層は館内の設備や家具、蔵書も含めた自館の施設サービスに強く影響を受ける。

⑶　ライフステージと各利用者層の図書館利用の変化

図書館から遠く離れた若年世帯が多い新興住宅団地からは児童の家族同伴での利用が多く、児童をきっかけに図書館利用が始まり、親と子どもが一緒に利用するようになる。有職男性も家族と共に利用するが次第に単独で利用するようになり、広範なエリアで施設サービスを選択して館内で滞在型の利用を行い、そのまま高齢化して常連化する。一方、主婦層は子どもと一緒に近い図書館を利用するが、自身も貸出利用を行う。子どもは中学生になると友人同士で勉強目的の席借り利用となり、クラブ活動や学習塾などを優先して図書館利用から離れる。また、主婦層は地縁的につながりが強く、英会話や料理教室、テニスサークルなど他の施設サービスを利用するため、子どもが成長した後も主婦が単独で継続して利用するには、「新鮮な図書」や「雑誌」の充実など高度な施設サービス水準の確保が必要（図3）。

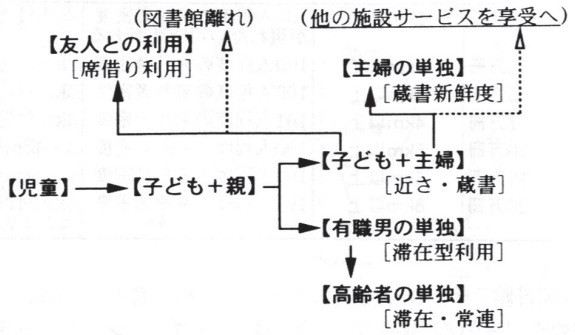


図３　ライフステージと図書館利用の変化

⑷　複数の図書館利用と使い分け利用

広域利用が可能な岐阜県西濃地域の5館で複数の図書館利用をみると、5館の利用圏域は相互に重なり合い、広範な図書館利用が行われている。利用者の2割が複数の図書館を利用し、居住地以外の図書館利用も2割いた。また、居住地の図書館を使っていない利用者が4％おり、近さだけでなく利用者が図書館を選択している状況がうかがえた。

調査当日の貸出利用者数は、来館者数に対して60～70％で、貸出登録証を持っていない利用者も2割近くおり、すべての来館者が図書の貸出だけを目的としていない。また、図書館に対するイメージについては、「知りたい・調べたいことが分かる」が約6割を占め、「新しい興味や関心を見つけられる」35％、「気分転換できる」25％など、図

書館に非日常性を期待している（表２）。

表２　図書館に対するイメージ

質問項目	（%）
知りたいこと・調べたいことがわかる	59.5
日課として来る	2.7
友人・知人と出会い、交流する	2.4
時間をつぶせる	11.9
勉強や作業のための場所がある	18.9
自分の世界に浸れる	11.0
新しい興味や関心を見つけられる	34.3
気分転換できる	24.7
家族や友人とレジャー的に来られる	7.5
その他	4.4

利用者は貸出利用だけではなく、隣接する複数の図書館を近さや蔵書の魅力、非日常性を期待させる雰囲気などから選択し、利用していることが整理できた。

2. 図書館に求められる機能

滋賀県の規模の異なる野洲、愛知川、永源寺の３館で行ったアンケート調査と行動観察調査から、館内での過ごし方や座席の選択理由を分析し（図４）、図書館に求められている機能について整理する[4、8、10、11]。

図４　公共図書館でのにぎわいの状況（野洲図書館）

(1)　館内での滞在場所と座席選択の理由

永源寺の北側に大きな窓があり、景色も開けた新聞雑誌コーナーのソファ席に人が多く、アンケートでもソファ席は有職男性、学生、高齢者に人気があり、選択理由も「居（座り）心地がよい」、「リラックスできる」ためが多く、学生は「自分のいる所から近い」も挙げられている。

愛知川はエントランスに近い児童書コーナーでは児童の出入りが多く、近くの雑誌コーナーも人気のエリアであるため動的なにぎわいのある空間となっている。一方、地域資料や一般書コーナーの辺縁部は静かに本を読む利用者が多く、動と静が明確に分かれていた。

野洲は窓際カウンター席と中心部の新聞雑誌コーナーの人気が高く、これらの座席に利用者が多く座っていた。座席の選択理由は、窓際カウンターは「外の景色がよい」、中央部の雑誌コーナーは「人がいるから」という理由が約１割程度見られた（図４）。

(2)　「都市的なにぎわい」と「地域のサロン」

野洲のように30万冊クラスの図書館だと土曜日一日で500人、ピーク時でも100人程度の利用者が滞在し、サービスデスク前の雑誌コーナーは人の通りも多く会話も生じており、「都市的なにぎわい空間」となっている。都市部の通りに面したカフェのように人や車の行き来、会話や小さな音がある方がかえって、人ごみに紛れた匿名性が確保されて落ち着くこともある。すべての図書館に必要ではないが、ただ静かに本を読む座席だけが望まれているわけではないことが整理できた。

永源寺では和室で地元小学校の同窓会を兼ねた学習活動の発表会を図書館で行っていた。発表会だけを見て帰宅する利用者もいたが、こうした学習活動の発表会を公民館ではなく、図書館で開催することは「地域のサロン」として図書館の持つ誰もが無料で利用できる施設機能を最大限に活用していると思われる。

(3)　地域の歴史や文化、活動の記憶

愛知川は地域・行政コーナーを設けて街の広報紙から歴史資料、新聞の折り込みチラシまで、徹底した地域の資料収集が特徴である。また、愛知

川のまち情報をカードに記載してもらう「まちのこしカード」など、地域の歴史について今現在の情報を丁寧に記憶している。

さらに、地元小学校の総合学習において作成した小さな冊子も地域資料として収集している。児童にすれば自分たちの成果物が図書館にあることで親近感が増しているためか、愛知川は児童の一人・友人たちとの来館が16%と過去最多（他館では１%程度）であった。

(4) 図書館規模と「場」としての役割

小規模な永源寺では、「地域のサロン」として図書館デビューをする若い母親たちの育児サロン、定年退職後の生涯学習の場所、各種活動の拠点としての図書館の利活用が求められる。中規模の愛知川は児童の友人との来館が多く、併設する公園を活発に利用するなど動きあふれる「学びの広場」として捉えられていた。蔵書規模の大きい野洲は、図書館の中に都市的な空間を求めている利用者が少なからずいることが分かった（表３）。

表３　図書館規模と「場」としての役割

図書館	規模	特徴	役割
永源寺	小	地域住民の小さな活動が行われ、利用目的が本だけではない。	コミュニケーション・出会いの場＝「地域のサロン」
愛知川	中	地域の学びの拠点として位置づけられ、自動同士でも来館して活発に利用されている。	多世代の交流・学びの拠点＝「学びの広場」
野洲	大	豊富な蔵書により成人男性の利用割合が高く、様々な利用が展開されている。	にぎわい・情報収集の場＝「館内で都市空間が形成されている」

利用者が少なく小規模だとしても無くすことは出来ない。「場」としての魅力は利用者や場所によって異なるが、規模や地域によってその特色を活かし、計画・運営していくことが必要である。

３．図書館における居場所形成

愛知県で2007年以降に行った田原、碧南、稲沢、日進、岡崎でのアンケート調査と行動観察調査から、館内での滞在場所と行為から居場所形成について整理する。特に、子どもについては姿勢と家具レイアウトに着目して利用行動をみていく[6、10、11]。

(1) 滞在時間からみた滞在型利用の動向

1990年代の調査では平均滞在時間は49分程度だが、今回は60分を超えている。同一館ではないが、立地条件や時期などに大きな相違点がないことを考慮しても、滞在時間は総体的に長くなっているといえる。また、滞在時間の頻度分布は30分以内の利用がたいへん多く、来館者全体の４割近くを占めている（図５）。４時間以上も利用している来館者もいるが、20分以内の利用者が最も多く、頻繁に人が動いている様子が読み取れる。

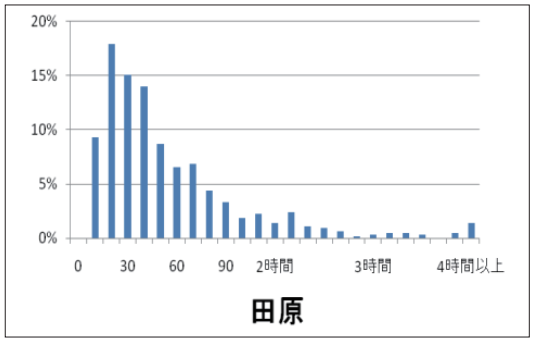


図５　公共図書館の滞在時間

(2) 着座行為率と座席占有率

着座行為率（着座人数／滞在者数）の開館から閉館までの時刻推移は、概ね60～65%のあたりで推移している。これはどの図書館でもほぼ同様の結果となり、着座に対する要求に地域差はなく、普遍的なものではないかと考えられる。着座の分布をみると時間帯による偏りはなく、頻繁に座席を移動して、館内の隅々まで利用者が入り込んでいることが分かっている（図６）。

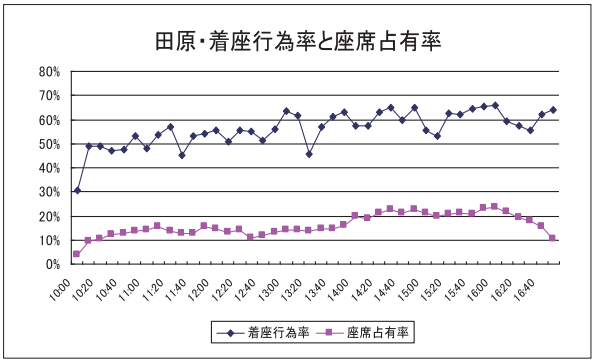


図６　着座行為率と座席占有率

また、座席占有率（着座人数／座席数）は、滞在者数がピーク時にどの館でも 40～50％程度となる。4 人掛けの机に見知らぬ者同士だと対角線上に 2 人座ることが多く、また席が横一列に並んでいると距離を保つために一つ以上席を空けて座ることも多い。こうした他者との距離感は、施設計画にとってたいへん重要だと思われる。

⑶　利用者の居場所の形成

今まで図書館を選択する理由としては、「近さ」と「蔵書の充実」がほとんどであったが、日進と岡崎で調査した結果、それぞれ近さや蔵書の充実に次いで、「明るさ」が施設選択の理由に挙げられている（図 7）。

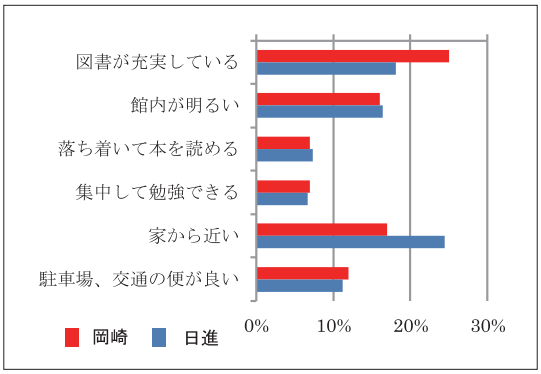


図 7　利用する図書館の選択理由

お気に入りの場所は、明るい窓際がよく選ばれており、来館者分布図では窓際はもちろん、トップライトの下や吹き抜けに面したところに、人は多く集まっている（図 8）。「明るさ」は窓からの採光などによる照度だけではなく、眺望や吹抜けなどの開放性も含めた空間的な性能を表しており、建築の空間的な魅力で利用者を引き付け、利用者が明るい図書館を選択していると考えられる。

⑷　子どもの座席選択と家具レイアウト

岡崎では設計期間中に地域住民とのワークショップが開催され、都市軸を活かすために一般開架室と児童開架室がエントランスホールを挟んで離れたので、親子が別々に分かれて子どもたちだけで児童室を利用し、書架間で「立ちながら」や「（床に）座りながら」の姿勢で本を読む場面が多く、書架間での読書率は 20％と高かった。日進の児童開架室と一般開架室は、雑誌コーナーを介して隣接しているため、席に着いた姿勢で本を読む事例が多く、書架間での読書率は 5％と低かった。

岡崎では書架間から閲覧席の様子が見えず、書架の連数が 6 ～ 7 連と長いため回り込んで閲覧席へ行かず、その場にしゃがみこんで本を読んでいる。一方、日進は書架間から閲覧席の様子が見え、書架の連数も 5 連と短いためか、閲覧席へ移動して本を読んでいた。児童開架スペースでは、書架全体の連数、書架の向き、閲覧席への近さや見通しが、子どもたちの利用行動に大きく影響を与えるため丁寧に計画を行いたい。

4．相対的な図書館の使い分け利用

滋賀県の東近江市の 7 館を対象に行ったアンケート調査と行動観察調査から、図書館サービス

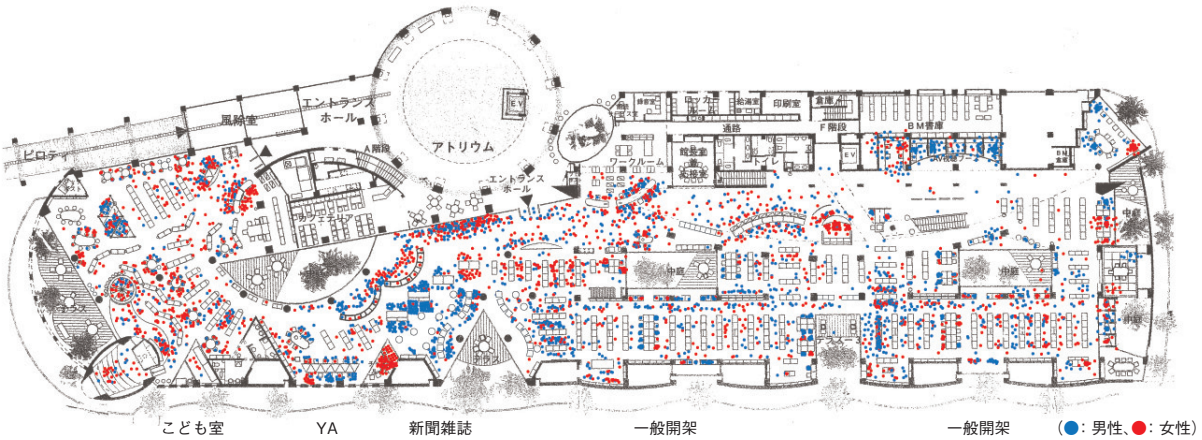


図 8　田原市中央図書館での来館者全体の分布図

と利用館の選択行動について整理する[7、10)]。

(1) 複数の図書館利用と利用圏域

過去の調査では約2割、2005年以降の愛知県では約4割の利用者が、複数の図書館を利用していた。東近江市では合併前は約4割と愛知県と同程度で、合併後は56%まで増加している。合併後は選択肢が増え、複雑で重層的な図書館利用が行われている。

7館の利用圏域の広がりは重なり合っており、来館者の居住地区ごとに利用している図書館の相互関係図を見ると、蔵書の多い図書館だけに利用が偏るのではなく、小規模館も他地区からの利用があり、相互に活発な図書館利用が行われていることがうかがえる（図9）。

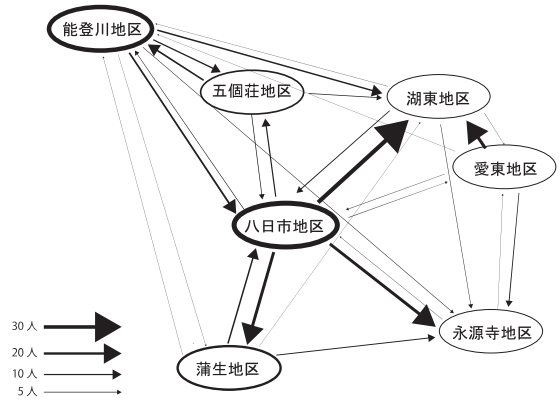


図9　居住地別の図書館利用パタン

(2) 各館の図書館サービスの特徴と利用者意識

合併を契機に、東近江市では収集してきた資料や立地などを考慮して、例えば医療施設が立地する能登川では「健康医療情報」、CDやDVDが充実している湖東では「芸術・映像」に力を入れるなど、各館で特徴あるサービスを提供している。利用者が各図書館をどのような理由に基づいて使い分けているかをみると、各館の利用理由の上位は各館の特徴あるサービスに関連したものが多く、利用者はきちんと各館が提供しているサービスを認知しており、各サービスを受けるために図書館を使い分けていることがうかがえた。

(3) 様々な利用者層の各図書館の使いこなし

小規模の愛東では、男性の高齢者が館内の閲覧席で司書と40分ほど話し込んでいた。図書などは全く借りていないが、館内に利用者が少なかったこともあり、地域のサロンのような利用が見られた（図10）。

図10　各利用者層の図書館の使いこなし

また、愛東と永源寺を同日2館利用（ハシゴ利用）している親子がいた。調査中もアンケート配布時に「○○でもアンケートを書いてきた」と言われる来館者も多く、活発な図書館利用がうかがえた。先の親子は、愛東では母親が本を探している間、職員がたたみコーナーで児童の様子を見ており、永源寺ではホールで開催中の作品展を鑑賞した後、本を借りて帰っている。永源寺は地域の作品展示会がよく開催されており、学習活動の発表場所として図書館が利用されている。いつでも・どこでも・だれでも利用できる図書館は、こうしたいろんな活動に直接触れられる機会を提供できていると考えられる。

(4) 相対的な図書館の選択利用行動

東近江市では単に規模や距離だけによる使い分け利用ではなく、各館の特徴を相対的に判断して、利用目的に応じて複数の図書館を使い分けて

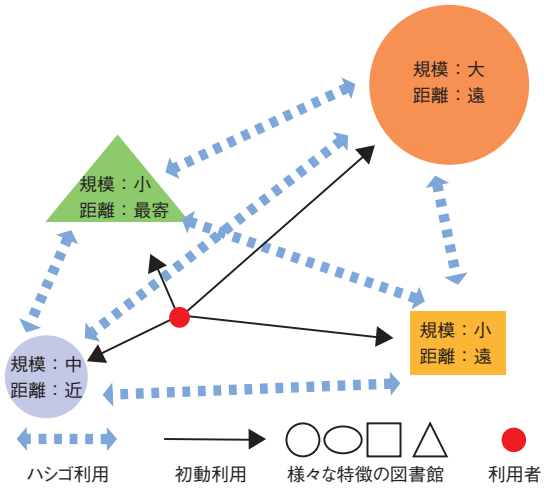


図11　相対的な選択利用行動のモデル図

いることが読み取れた（図 11）。また、こうした相対的な選択利用行動は、複数館を同日中に利用（ハシゴ利用）し、職員との会話を楽しむような地域のサロンとしての利用も含んでいる。

従来の図書館ネットワークだけではなく、各館の特徴を踏まえた図書館サービスのネットワークが利用者にきちんと意識され、施設の選択行動に現れている。どのような図書館サービスを地域全体で提供していくのか、自館の蔵書規模だけではなく、内容や蔵書以外の利用者を引き付ける魅力を丁寧に計画する必要がある。

５．大学図書館に対する図書館像

愛知工業大学 AIT、大手前大学 CELL、神田外語大学 KUIS、国際基督教大学 ICU の 4 館を対象にアンケートと巡回調査を行い、利用状況から利用意識を捉え、利用者が求める図書館像を整理する[8、9、10、11]。

⑴　大学図書館とラーニング・コモンズ

インターネット、携帯電話やスマートフォンの普及、電子書籍の登場などにより、デジタルとアナログのハイブリッド型の資料提供が必要となってきている。一方で、大学図書館では資料だけではなく、グループでのディスカッションを伴う場所と人的な側面から、学習や研究支援を行う「ラーニング・コモンズ」が設けられるようになった。

地域の教育力を支える大学から、ノーベル賞を輩出するような大学まで、図書館に求められているサービス、あるいは学生が求めているサービスは、各々の大学で異なるはずである。各大学での教育理念が、そのまま大学図書館に反映される方が望ましいと考えている。

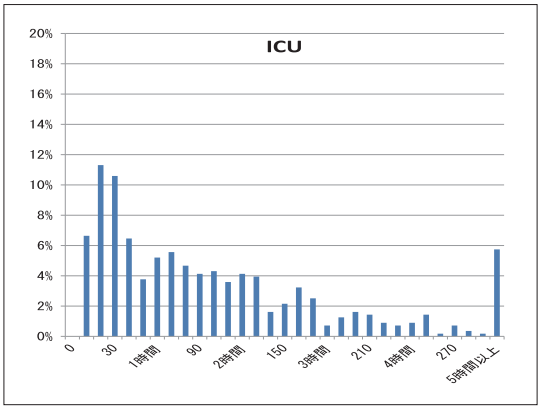


図 12　大学図書館の滞在時間

⑵　利用者の着座と滞在に対する意識

滞在時間は平均 60〜70 分程度だが、10 分ごとの頻度分布は公共図書館と同様に 30 分までの分布が多い。また、授業の合間に図書館を利用しているためか、60 分から 120 分あたりの分布が多くなっている（図 12）。

6 〜 7 割の利用者が個人で来館し、利用目的は本を借りるためが20〜30%で、一人で勉強は30〜40%と多く、個人利用が主体である。利用頻度は、週に 2，3 回が 40 〜 50%を占め、毎日から週に 1 回までを含めると 4 館とも 80〜90%と個人利用のリピーターが多い。

一方、大学図書館での着座行為率は、公共図書館の65%に比べどの館も平均で85 〜 90%と高く、国際基督教大（ICU）では 95%と非常に高い値となった。一日の時刻変動をみてもほぼ一定で、着座に対する高い要求が示されている。特に ICU の書架のないデスクトップ型のパソコンが並ぶスタディエリア、大手前 CELL でもパソコン席は人気が高く、パソコンの利用が着座利用を促しているといえる。

⑶　図書館に対する要望と図書館サービス

アナログ資料とデジタル資料の使い分けについてみると、あまり差は見られなかった。利用者は、短時間で調べる、最新のデータが知りたいときは「デジタル資料」、深く理解したい、時間をかけて調べたいときは「アナログ資料」を使い分けていた。

一方で、図書館への要望は、パソコンを多く利用している館はさらにパソコン台数を求めるなど、享受しているサービスについて高くなり、受けてないサービスについては低くなっている（図 13）。図書館資料はアナログだけでもデジタルだけでも不十分であり、どちらか一方では利用する需要さえ起らない。利用者が他の大学図書館を日常的に利用することは難しく、享受していないサービスに対する需要が掘り起こされない。普段利用する図書館で偏りなく、多様なサービスを各大学の教育理念に即して提供することが必要である。

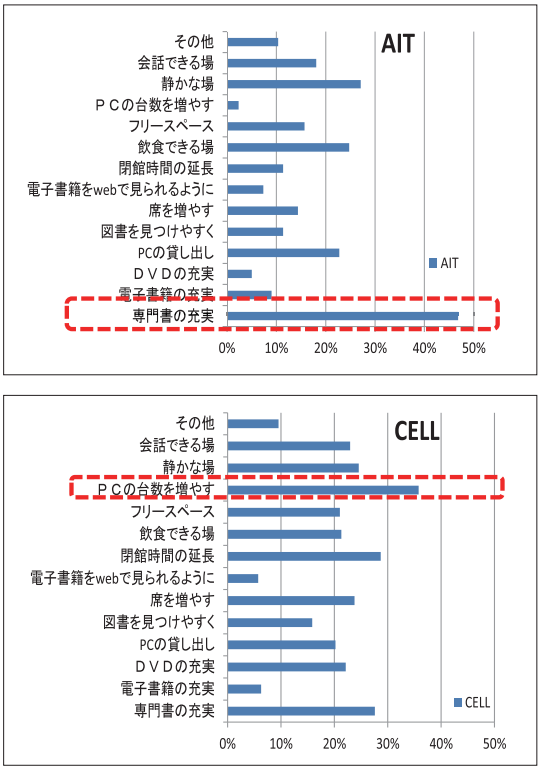


図 13　大学図書館に対する要望

(4)　コミュニケーション型学習環境と音環境への配慮

大手前 CELL や神田外大 KUIS のように会話を許容しているフロアが分かれていれば、グループによる賑やかな利用と個人で静かに勉強する利用がフロアで明快に分かれている（図 14）。個人利用者はキャレル席やパソコン席など集中して作業できる静かな環境を選び、グループ利用者はグループ室をはじめ会話できるよう周囲を気にしながら音を出してもよい環境を選んでいる。また、静と動がフロアで分かれていないと、グループによる会話と個人による勉強が同一階に混在していた。

動の空間があることで静の空間が生じ、静の空間だけでは落ち着いた環境は作り出せないともいえる。多様化する学習形態のために、動と静の空間における座席選択の志向性や周辺環境との関係性の整理が必要である。

6．図書館の多機能化とゆるやかな機能連携

複合施設の図書館は調査をしてきたが、今回は駅前に立地する一宮市立中央図書館、既存市街地に立地する塩尻市立図書館、ラーニング・コモンズを持つ明治大学和泉図書館において調査を行い、図書館に求められる機能について整理する[12、13～16]。

(1)　複合化による立地条件と各利用者層の利用圏域

一宮の利用圏の広がりを累積距離でみると、50％が 2.8km、80％が 4.9kmと市内からの来館が多く、市外へは広がっていない。交通手段をみると、過去の調査では車利用が 7 割であったが、一宮は車が 4 割、徒歩、鉄道が過去に比べそれぞれ約 10% 増となり、鉄道だけが突出して増えていない。これには駐車場の問題が大きく影響しており、一宮では近くの立体駐車場を図書館利用者は 1 時間無料で以降は 30 分で 100 円課金されるため、車での利用が少なくなったと考えられる。

6 属性の割合をみると、一宮では主婦が少なく高齢者が増えている。主婦層は家族連れで近さを

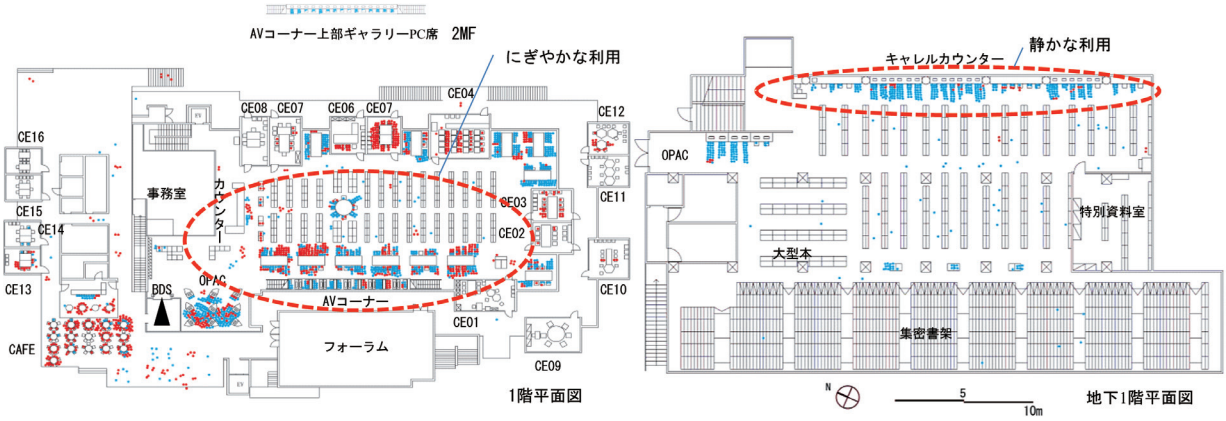


図 14　大手前大学 CELL での来館者全体の分布図

（●：個人、●グループ）

優先して車で図書館を利用するので、一宮では家族連れの主婦の利用が減少したと考えられる。このように立地条件や交通手段により利用者層に偏りが生じることがあるため、地域の実情を加味して丁寧に計画する必要がある。

⑵　複合施設における図書館と共用空間の利用行動

今回は図書館内だけではなく、施設の共用部分でも行動観察調査を行った。塩尻は学習室が共用部にあり、共用部の廊下やフリースペースでは、学生の勉強や住民の学習活動、会話、飲食が行われていた（図 15）。

一宮の学習室は図書館内部に設けられているため館内で勉強する学生がかなり多く、3 階の半屋外空間のシビックテラスでは利用者層が飲食やおしゃべりをしており、イベント時はそれを見る行

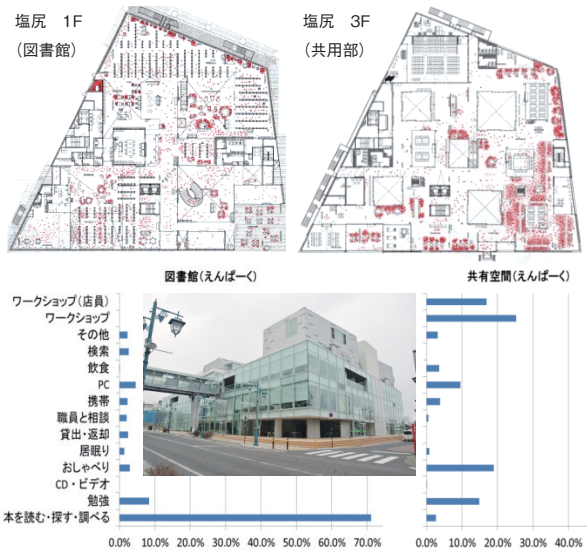


図 15　塩尻市立図書館の来館者全体の分布図と行為割合

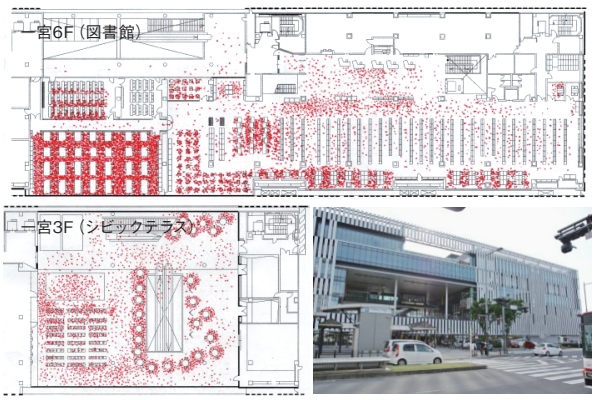


図 16　一宮市中央図書館の来館者全体の分布図

為が多かった（図 16）。

塩尻と一宮ともに、図書館内でできない飲食や会話などが共用部分で行われるなど、お互いを補完し合っている状況が整理できた。

⑶　ラーニング・コモンズによる居場所形成と利用行動

明治和泉はラーニング・コモンズのコミュニケーション・ラウンジが 2 階にガラスで仕切られ、1 階にノート PC の貸出機があり、3・4 階は静の空間として計画されている。

利用目的は「1 人で勉強」が約 50% と高く、また他館と比べてソファ席が多く「くつろぐため」が 25% となり、学習の場だけでなく快適な場として認識されている（図 17）。利用行為の割合は「勉強する」が 32%、次に「PC を利用」15%「居眠り」16%「携帯電話を触る」15% となった。各階ごとで行為をみると、階が上がるにつれ勉強が増えるが、3、4 階は居眠りや携帯電話を触る利用者が多い。

図 17　明治和泉の各階の来館者分布

各階のプロットをみると、キャレル席に分布が集中しており、2 階でもグループ席よりもキャレル席の方が好まれている。2 階の新書コーナーはどの書架よりも利用者が集まっているが、各階の書架間に分布は少ない。

明治和泉では多くの座席においてコンセントが

配備されており、パソコンや携帯電話の利用が誘発されている。今後の学習環境の整備に向けて、こうした勉強以外の利用行動をどのように許容するのかが重要となる。

⑷　機能の多様化と複合体としての図書館

公共図書館と大学図書館では、利用者層や利用の内容、提供しているサービスも異なるため単純に比較できないが、利用者は施設サービスに応じて様々な「場」への想いを持って利用し、それらは多層的に構成されている。「場」とは利用者の意識であり、利用行動によって形成されるものであるが、図書館設置の状況、複合や連携による新しい機能やサービスの提供などから、重層的な「場」としての利用行動と利用意識を捉えて、具体的な施設計画につなげていきたいと考えている。

まとめと今後の課題

公共図書館と大学図書館のそれぞれが抱える課題、比較による共通点と相違点を通じて浮かび上がる課題について整理を行ってきたが、残念ながらまだ「これからの図書館像」を導き出せるまでには至っていない。

最後で少し触れたが、公共と大学を問わず新しい施設サービスと複合（連携）することで、新しい施設サービスを提供しているユニークな施設が登場している。ゆるやかに各機能のつながったプログラムが垣根を越えて複合化することで、今まで利用してこなかった人たちをも惹きつけることができると考えられ、今後は施設サービスとの関連で利用行動・利用意識を捉えていきたい。

＜謝辞＞

本稿は2014年8月1日に中部大学附属三浦記念図書館で開催された東海地区大学図書館協議会研究集会で講演した内容に加筆・修正したものです。関係各位に感謝の意を表します。

調査にご協力いただいた各図書館の館長ならびに職員の方々に深謝いたします。また、本報告の一部は、平成23～25年度科学研究費補助金「『場』の概念からみた図書館における来館を促す建築的魅力に関する研究」（基盤研究C、研究代表者：中井孝幸）の助成を受けて行ったものである。

＜参考文献＞

1）中井孝幸：利用圏域の二重構造に基づく疎住地の図書館計画に関する研究、学位論文、2000.7

2）中井孝幸：地方中小都市における図書館利用とモータリゼーション－利用圏域の二重構造に基づく図書館の地域計画、日本図書館協会、現代の図書館、Vol.39、No.2、pp.102 - 110、2001.6

3）日本図書館協会町村図書館活動推進委員会編：図書館による町村ルネサンスLプラン21 － 21世紀の町村図書館振興をめざす政策提言、日本図書館協会、2001.7

4）日本図書館協会施設委員会編：来館を促す建築的魅力－非来館型利用が増える中で“場としての図書館”を考える－、第31回図書館建築研修会、日本図書館協会、2009.12

5）植松貞夫, 冨江伸治, 柳瀬寛夫, 川島宏, 中井孝幸：JLA　図書館実践シリーズ13　よい図書館施設をつくる、日本図書館協会、2010.3

6）秋野崇大、中井孝幸：図書館における時刻推移と利用者属性からみた場の選択について－居場所としての図書館計画に関する研究　その1、地域施設計画研究29、日本建築学会、pp.191-198、2011.7

7）秋野崇大、中井孝幸：使い分け行動に基づく図書館の特色と利用者意識について－居場所としての図書館計画に関する研究　その2、地域施設計画研究30、日本建築学会、pp.127-136、2012.7

8）日本図書館協会施設委員会編：にぎわい・ふれあい空間を考える－これからの図書館における仕掛けと場のつくり方、第34回図書館建築研修会、日本図書館協会、2013.2

9）蒋逸凡、中井孝幸：利用者意識と座席選択からみた居場所としての大学図書館に関する研究、愛知工業大学研究報告、第48号、pp.297-307、2013.3

10）中井孝：図書館における空間デザインと利用者行動、日本図書館協会、現代の図書館、Vol.51 No.2、206号、pp.68-80、2013.6

11）中井孝幸：利用行動からみた「場」としての図書館に求められる建築的な役割、情報の技術と科

学、63 巻 6 号、pp.228-234、2013.6
12）日本図書館協会施設委員会編：地域活性化と図書館、その建築－地域とのつながりを考えた図書館建築、第 35 回図書館建築研修会、日本図書館協会、2014.2
13）丹羽一将、渡邉裕二、中井孝幸他：「場」としての図書館計画に関する研究その 1、その 2、日本建築学会東海支部研究報告集、第 52 号、pp.533-536、pp.537-540、2014.2
14）大山真司、田中隆一朗、中井孝幸他：大学図書館における「場」の選択と利用意識その 1、その 2、日本建築学会東海支部研究報告集、第 52 号、pp.533-536、pp.537-540、2014.2
15）丹羽一将、渡邉裕二、中井孝幸：図書館のある複合施設における利用実態に関する研究、日本建築学会学術講演梗概集（近畿）、pp.413-414、2014.9
16）大山真司、田中隆一朗、中井孝幸他：居場所としての大学図書館の施設計画に関する研究その 1、その 2、学術講演梗概集（近畿）、pp.423-424、pp.425-426、2014.9

行　事

第 68 回（2014 年度）東海地区大学図書館協議会　総会・研究集会

【総会の部】

日　　時：平成 26 年 8 月 1 日（金） 10:30 ～ 11:50
会　　場：中部大学リサーチセンター大会議室
総会当番館：中部大学附属三浦記念図書館
出 席 者：48 大学 77 名

図　書　館　名		職　名
□■　岐阜県　■□		
1	朝日大学図書館	主任
2	岐阜大学図書館	学術国際部情報サービス課長
		学術国際部情報サービス課長補佐
3	岐阜市立女子短期大学附属図書館	嘱託職員
4	岐阜聖徳学園大学図書館	羽島図書館課主任
5	岐阜女子大学図書館	館員
6	情報科学芸術大学院大学附属図書館	主任
7	中京学院大学図書メディアセンター	司書
8	中部学院大学附属図書館	嘱託司書
□■　静岡県　■□		
9	静岡大学附属図書館	副課長
10	静岡理工科大学附属図書館	図書課長
11	東海大学付属図書館清水図書館	係長
12	東海大学短期大学部図書館	図書館長　教授
13	浜松医科大学附属図書館	情報サービス係事務補佐員
		情報サービス係事務補佐員
□■　愛知県　■□		
14	愛知大学図書館	名古屋図書館課長
		豊橋図書館課長
15	愛知学院大学図書館情報センター	事務長
		業務委託クルー
		業務委託クルー
16	愛知教育大学附属図書館	附属図書館長
		情報図書課長
		資料受入担当係長

図　書　館　名		職　名
17	愛知県立大学学術研究情報センター	学術研究情報センター長
		図書情報課長
		学術情報課係長
		図書情報課主事
		図書情報課契約職員
18	愛知県立芸術大学芸術情報センター図書館	図書情報係長
		契約職員
19	愛知工業大学附属図書館	課　長
		主　任
20	愛知淑徳大学図書館	図書館長
		図書館事務室長
		事務員
21	桜花学園大学図書館・名古屋短期大学図書館	図書課長
22	金城学院大学図書館	課長
23	椙山女学園大学図書館	職員（司書）
24	大同大学図書館	図書館長
		図書館室長
		図書館室主査
25	中京大学図書館	副参事
26	東海学園大学図書館	主査
		司書
27	豊橋技術科学大学附属図書館	教務課　情報・図書室情報管理係長
28	豊橋創造大学附属図書館	図書館主任
29	名古屋大学附属図書館	附属図書館長
		事務部長
		情報管理課長
		情報管理課長補佐
		情報サービス課閲覧掛長
30	名古屋外国語大学・名古屋学芸大学図書館	図書館長
		課長
31	名古屋学院大学学術情報センター	課長
		課長補佐
32	名古屋経済大学・名古屋経済大学短期大学部図書館	副部長
33	名古屋芸術大学附属図書館	室　長
34	名古屋工業大学附属図書館	学術情報課長

図　書　館　名		職　名
35	名古屋産業大学・名古屋経営短期大学図書館	職員
36	名古屋女子大学学術情報センター	センター長補佐
37	名古屋市立大学総合情報センター	学術情報担当主査
38	名古屋造形大学図書館	嘱託職員
39	名古屋文理大学図書情報センター	主任
		主任
40	名古屋柳城短期大学図書館	図書館係長
41	南山大学図書館	図書館事務課長
42	藤田学園医学・保健衛生学図書館	司書
43	名城大学附属図書館	情報管理課長
□■　三重県　■□		
44	皇學館大学附属図書館	事務長
45	三重大学附属図書館	学術情報部情報・図書館課長
46	三重県立看護大学附属図書館	統括責任者
47	津市立三重短期大学附属図書館	主査
□■　当番館　■□		
48	中部大学附属三浦記念図書館	館長
		次長
		課長
		担当課長
		担当課長

総 会 議 事 要 録

Ⅰ 開会

Ⅱ 挨拶

中部大学副学長　岸田　民樹
東海地区大学図書館協議会長　佐野　充

Ⅲ 議長選出

中部大学附属三浦記念図書館長　内藤　和彦

Ⅳ 報告事項

1 平成 25 年度事業報告

事務局から平成 25 年度の事業について次のとおり報告があった。

⑴ 第 67 回（2013 年度）総会
平成 25 年 8 月 9 日（金）
会場：静岡大学
総会当番館：静岡大学附属図書館
（30 大学　43 名参加）

1）報告事項
平成 24 年度事業報告、平成 24 年度決算報告・同監査報告、国公私立の各大学図書館の活動状況、当面の課題等について（名古屋大学、愛知県立大学、中部大学）

2）協議事項
退会館について､平成 25 年度事業計画(案)及び予算（案）について、東海北陸地区国立大学図書館協会からの「図書館職員基礎研修」共催の検討依頼について、平成 26 年度総会当番館について、永年勤続者表彰（6 名）

⑵ 研究集会
平成 25 年 8 月 9 日（金）
テーマ「大学図書館の外に学ぶ」
講演
「学校図書館の動向　その課題と成功例から大学図書館が学ぶもの」
静岡大学大学院教育学研究科教授
村山　功
講演
「「大災害に備える」静岡県教育委員会の取り組み：静岡県文化財等救済ネットワークを中心に」
静岡県教育委員会文化財保護課指導主事
鈴木　正悟

⑶ 研修会
1）図書館職員基礎研修（第 4 回）
平成 25 年 12 月 13 日（金）
会場：名古屋大学
研修担当館：名古屋大学
（35 大学・機関　59 名参加）
講義
「激動の時代を生き抜くために」
富山大学附属図書館　白木　俊男
「情報リテラシー教育」
愛知県立大学学術研究情報センター
新海弘之、草間知美
「ILL（相互貸借）」
愛知大学豊橋図書館　島田美津穂
「電子情報(電子ジャーナル､電子ブック、データベース等)」
名古屋工業大学附属図書館
林　和宏
「分類・目録」
名古屋大学附属図書館理学図書室
揚野　敏光
「プレゼンテーション入門」
名古屋大学高等教育研究センター准教授
近田　政博

2）第 2 回
平成 26 年 3 月 3 日（月）
テーマ「西洋古典資料の整理･保存について」
会場：名古屋経済大学名駅サテライトキャンパス
研修担当館：名古屋経済大学・名古屋経済大学短期大学部図書館
（20 大学・機関　60 名（内公共図書館から 2 機関 4 名）参加）
講義
「歴史的製本の修理について」
講師：製本家、アトリエ・ド・クレ主宰
岡本　幸治

講義
「洋書の扉」
講師：元跡見学園女子大学教授
高野　彰

⑷ 「東海地区大学図書館協議会誌」58号
平成25年12月25日（水）発行

⑸ 運営委員会等
1）監事会（平成26年度、平成26年6月4日（水）、会場：名古屋大学）
監事館：愛知県立芸術大学、名古屋外国語大学・名古屋学芸大学
2）機関誌編集委員会（平成26年度、平成26年6月25日（水）、電子メールによる審議）
3）運営委員会（平成26年度、平成26年6月30日（月）、会場：名古屋大学）

2　平成25年度決算報告・同監査報告

事務局から、平成25年度の決算について報告があり、続いて、監事館を代表して愛知県立芸術大学から、監査の結果、経理は正確に処理されていることを確認したとの報告があった。

平成25年度の決算報告について、報告のとおり承認された。

3　国公私立の各大学図書館の活動状況、当面の課題等について

国公私立の各協議会の理事校・幹事校（名古屋大学、愛知県立大学、中部大学）から報告があった。

Ⅴ　協議事項

1　役員館について

事務局から、役員館の選出方法について説明があった後、会長館の選出に移り、立候補がないため、推薦により名古屋大学が選出された。また、機関誌編集委員会を会長館が後日指名する他は、選出母体からの推薦による候補館が承認された。

2　東海地区大学図書館協議会誌の最低購入部数と今後の取扱いについて

事務局から、東海地区大学図書館協議会誌の最低購入部数と今後の取扱いについて説明があり、協議の結果、提案どおり承認された。

3　平成26年度事業計画（案）および予算（案）について

事務局から、平成26年度事業計画（案）および予算（案）について説明があり、協議の結果、提案どおり承認された。

4　平成27年度総会当番館について

第69回（平成27年度）総会・研究集会の当番館として愛知県立大学学術研究情報センター図書館が選出された。

Ⅵ　永年勤続者表彰

平成26年度の永年勤続者として6名が表彰された。

永年勤続表彰
香田友美恵（朝日大学図書館）
江間　利枝（浜松医科大学附属図書館）
井上　章子（大同大学図書館）
花田　明美（名古屋大学附属図書館医学部分館保健学図書室）
渡邊　昌子（名古屋大学附属図書館法学図書室）
原　　昌見（名古屋造形大学図書館）

永年勤続表彰

Ⅶ　閉会

【研究集会の部】

日　時：平成 26 年 8 月 1 日（金）13:00 ～ 16:25
会　場：中部大学リサーチセンター大会議室
テーマ：「利用したくなる図書館～インテリア計画と建築計画～」

講演
「大学図書館にも親しみやすさを～まず玄関を入ったあたりから」
図書館づくりと子どもの本の研究所代表
平湯　文夫

講演
「にぎわい・ふれあいの場としての図書館像～公共図書館と大学図書館での行動観察調査を通じて～」
愛知工業大学工学部建築学科准教授
中井　孝幸

平成 25 年度決算報告

（平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日）

科　目	予算額 a	決算額 b	過△不足額 b − a	備　考
収入の部	円	円	円	
1．前年度繰越金	1,690,289	1,690,289	0	
2．会　費	425,000	425,000	0	平成 25 年度分： @ 5,000 × 85 館 = 425,000
3．会誌売上費	446,000	434,000	△ 12,000	57 号分：@ 2,000 × 3 部 = 6,000 58 号分：@ 2,000 × 214 部 = 428,000
4．分担金	8,000	8,000	0	北陸地区国立 4 大学からの基礎研修分担金 @ 2,000 × 4 = 8,000
5．雑収入	365,000	422,800	57,800	協議会誌広告掲載料　385,000 @ 30,000 × 1 社 = 30,000 @ 25,000 × 1 社 = 25,000 @ 20,000 × 12 社 = 240,000 @ 10,000 × 9 社 = 90,000 基礎研修昼食交流会費 @ 600 × 63 名 = 37,800
6．預金利息	200	267	67	
計	2,934,489	2,980,356	45,867	

＊前年度繰越金を除く平成 25 年度の収入額　　1,290,067 円

科　目	予算額 c	決算額 d	過△不足額 d − c	備　考
支出の部	円	円	円	
1．総会補助金	100,000	100,000	0	第 67 回総会（静岡大学）
2．研究集会補助金	30,000	20,620	△ 9,380	講演謝金（2 名） （加盟館職員，加盟館外講師）
3．研修会費	220,000	344,064	124,064	講師謝金（2 回分）、会場使用料、会場館補助金、基礎研修昼食交流会費用
4．源泉所得税納付	24,000	30,499	6,499	研究集会，研修会での講演料，原稿料に対して
5．会誌刊行費	660,000	584,136	△ 75,864	58 号
6．役員会経費	10,000	3,418	△ 6,582	運営委員会ほか役員会
7．事務費	120,000	17,989	△ 102,011	テープ起こし、振り込み手数料
8．通信費	40,000	39,814	△ 186	会誌送付等郵便料金
9．表彰記念費	30,000	28,718	△ 1,282	表彰記念品（ネーム印付きボールペン 6 本，表彰状ファイル等）
10．予備費	1,700,489	0	△ 1,700,489	
11．次年度繰越金	0	1,811,098	1,811,098	
計	2,934,489	2,980,356	45,867	

＊次年度繰越金を除く平成 25 年度の支出額　　1,169,258 円

平成 26 年 3 月 31 日締め　　預金残高　1,799,359 円
現金残高　11,739 円
資産総額　1,811,098 円

会計監査　平成 26 年 6 月 4 日
愛知県立芸術大学
名古屋外国語大学・名古屋学芸大学

監査済み

平成 26 年度予算

（平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日）

科　目	前年度 決算額 a	本年度 予算額 b	前年度決算額 よりの増△減 b － a	備　考
収入の部	円	円	円	
1．前年度繰越金	1,690,289	1,811,098	120,809	
2．会　費	425,000	425,000	0	平成 26 年度分： ＠5,000 × 85 館＝ 425,000
3．会誌売上費	434,000	260,000	△ 174,000	58 号分：＠2,000 × 4 部＝ 8,000 59 号分：＠2,000 × 126 部＝ 252,000 （運営委員会決定により各機関 1 部は無料とする）
4．分　担　金	8,000	0	△ 8,000	基礎研修実施年度に北陸地区国立 4 大学から徴収
5．雑　収　入	422,800	365,000	△ 57,800	協議会誌広告掲載料　59 号分
6．預金利息	267	200	△ 67	
計	2,980,356	2,861,298	△ 119,058	

＊前年度繰越金を除く本年度の収入額　　1,050,200 円

科　目	前年度 決算額 c	本年度 予算額 d	前年度決算額 よりの増△減 d － c	備　考
支出の部	円	円	円	
1．総会補助金	100,000	100,000	0	第 68 回総会（中部大学）
2．研究集会補助金	20,620	100,000	79,380	講師謝金（ 2 名） （加盟館職員、加盟館外講師）
3．研修会費	344,064	220,000	△ 124,064	当番館経費（名古屋大学，愛知県立芸術大学），講師謝金等（ 2 回分）
4．源泉所得税納付	30,499	37,000	6,501	研究集会，研修会での講演料，原稿料に対して
5．会誌刊行費	584,136	660,000	75,864	59 号　300 部
6．役員会経費	3,418	10,000	6,582	運営委員会ほか役員会等
7．事　務　費	17,989	120,000	102,011	事務用品等（キャビネット等購入費を含む）
8．通　信　費	39,814	42,000	2,186	会誌送付等郵便料金
9．表彰記念費	28,718	30,000	1,282	永年勤続表彰者 6 名の記念品（ネーム印付きボールペン）等
10．予　備　費	0	1,542,298	1,542,298	
11．次年度繰越金	1,811,098	0	△ 1,811,098	
計	2,980,356	2,861,298	△ 119,058	

＊予備費を除く本年度の支出額　　1,319,000 円

施 設 紹 介

愛知学院大学図書館情報センター名城公園キャンパス分館 Cubic Lib

〒462-8739　愛知県名古屋市北区名城三丁目１番１号
http://www.lib.aichi-gakuin.ac.jp/mc/index.html

平成 26 年 4 月、愛知学院大学は、名城公園キャンパスを開設した。昭和 49 年の日進キャンパスへの移転から 40 年を経て、名古屋中心部への都心回帰のキャンパスとなった。

・経緯と立地

平成 25 年 4 月、経済学部新設を機に名城公園キャンパス事業を開始。名古屋城東側の官庁・ビジネス街の中のキャンパスとなるため、新設の経済学部に、実績のある商学部、経営学部を加えたビジネス系 3 学部の移転とし、2 年次生以上の専門教育を行うキャンパスとして位置付けた。

・図書館概要

名城公園キャンパス（MKC）の 4 つの建物群のうち、Intelligence Cube（インテリジェンスキューブ地上 4 階建）の 1 F、2 F に図書館（Cubic Lib キュービックリブ）を開設した。面積は約 2,000 ㎡、総座席数は 197 席（グループ学習室含む）とコンパクトだが、無線 LAN 環境が整備されている。また、1 F サブ出入口、2 F メイン出入口としたことにより、3 F、4 F の ICT 教室（Cubic Lab キュービックラボ）への動線となっている。Intelligence Cube 全体で、資料と ICT を活用したアクティブラーニングを支援している。

Cubic Lib 2F ブラウジングコーナー

・ビジネス系図書館と地域図書館

ビジネス系学部のキャンパスのため、蔵書構成はビジネス書が中心である。

新規に、商学・経営学・経済学関係図書 4566 冊、法律関係図書 471 冊、参考図書 697 冊、視聴覚資料 365 本を購入、ビジネス系実践的データベース 4 点（日経 NEEDS、Mpac、東洋経済デジタルコンテンツ・ライブラリー、Web 民力）を追加導入した。近隣地域を意識し、本学の特色でもある仏教関係図書 655 冊のほか、文庫・新書 5543 冊、一般教養書 618 冊も新たに購入した。関係教員により、日進キャンパス図書館情報センター蔵書からの選択作業も行い、ビジネス系図書、視聴覚資料を選択、併せて、商学部、経営学部附置の 3 研究所の図書を Cubic Lib に移管した。新規購入、既存蔵書を合わせて、約 40000 冊からのスタートとなった。その他、学術雑誌 316 タイトル、各種新聞、ブラウジング雑誌も揃えている。日進キャンパス同様、シラバス・指定図書、ビジネス系資格取得ための図書、教職課程用図書も揃え、従来通りの資料提供に努めている。

立地と環境を活かし、企業や行政と連携した実践的な学びを支える図書館として、今後も整備に努めていく。

Cubic Lib 1F

施 設 紹 介

名古屋大学附属図書館中央図書館

〒464-8601　愛知県名古屋市千種区不老町
http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/

名古屋大学附属図書館中央図書館は、平成25年度後半の約半年間をかけて、耐震改修及び全面的な機能改修工事が行われた。この工事は平成24年度補正予算に学内予算を加えて実施されたもので、職員、資料とも居ながらにしての工事となった。

今回の改修により、大きく変わった点を以下に紹介する。

まず、外観を赤レンガ基調から四谷通を挟んで反対側にある豊田講堂を意識した白基調へと一新した。

内部は、改修にあわせてフロアプランの見直しを行い、入口の賑やかな空間から上層階に行くにつれて静かな空間となるようゾーニングを明確化した。ゾーニングについてはフロアカーペット及びメインのアクセスルートにある柱の色で活発なフロアから静寂なフロアへのイメージを表現している。各フロアの主な改修箇所は以下のとおりである。

【2階（入口階)】

平成20年度からラーニング・コモンズとして整備してきたフロアである。今回はさらに、平成23年度に設置したディスカバリスクエアを拡充し、グループ学習やゼミ、ポスター発表等のみならず、説明会や講演会等も開催することが可能なスペースとした。また、4階にあった展示室を2階入口横の事務室であった場所に移設し、トークイベント等の開催も可能な「ビブリオサロン」として設置した。図書館来館者の知的交流の場として、また社会貢献の場として活用が期待される。

【3階】

旧研究開発室のスペースにラーニング・コモンズの一角を成すグループ学習スペース「ラーニング・ポッド」を設置した。5部屋ある「ラーニング・ポッド」は1部屋を除き壁面がホワイトボードとなっており、学習等に利用できる。また、窓際の閲覧席を全てカウンター席とした。

【4階】

研究個室のパーティション改修にあわせ、窓際の閲覧席に新たにパーティションを設置し、個室風の空間とした。このことにより、より個別学習、研究等に集中できる環境を整備した。

また、貴重書室、準貴重書室を1階から4階に拡張、移転し、収蔵庫としての環境を整え、前室も設置した。これにより、貴重書、準貴重書の保存環境を整備充実させ、資料調査、閲覧環境を確保することができた。

以上のように、館内の環境を整備したことにより、より活発な図書館の利用が期待される。図書館職員による学修支援サービスにも、さらに力を注いでいく予定である。

外観

東海地区大学図書館協議会会則

（名　称）

第１条　本会は、東海地区大学図書館協議会と称する。

（目　的）

第２条　本会は、東海地区大学図書館の発展を図ると共に、図書館員の教養と技術の向上及び相互の親睦をはかることを目的とする。

（会　員）

第３条　本会は、前条の目的に賛同する東海地区（静岡、愛知、岐阜、三重）の国立、公立、私立の大学図書館その他これに準ずる図書館を以て組織する。

（事　業）

第４条　本会は、第２条の目的を達するために、次の事業を行う。

一　会員相互間の連絡提携
二　図書及び図書館に関する研究会、講習会、展覧会等の開催並びに後援
三　図書館運営に関する相談、指導
四　機関誌の発行
五　その他必要と認める事業

（会　長）

第５条　本会に会長を置く。

２　総会において会長館を選出し、その会長館の図書館長が会長となる。

３　会長の任期は、２年とする。但し、重任を妨げない。

（委員会）

第６条　本会に運営委員会及び機関誌編集委員会を置く。

２　委員会に関する事項は、別に定める。

（総　会）

第７条　会長は、毎年一回総会を招集する。

２　会場は、加盟館の輪番とする。

第８条　会長館は、協議事項（議題及び承合事項）をとりまとめ、審議運行の手続きを計る。

第９条　総会の票決権は、一館一票とし議決は出席館の過半数の賛成を要する。

（会　計）

第10条　本会の経費は、会費その他の収入をもって当てる。

２　会員の会費は、年額5,000円とする。

第11条　本会の会計事務を監査するため、監事を置く。

２　総会において監事館を選出し、その監事館の図書館長が監事となる。

３　監事の任期は２年とする。但し、重任を妨げない。

第12条　本会の予算は、毎年総会の議決を経て決定し、決算は監査を受けたのち、次の総会において承認を得るものとする。

第13条　本会の会計年度は、４月１日に始まり、翌年３月31日に終る。

（事務局）

第14条　会長館に、本会の事務局を置く。

２　事務局に、事務局長及び職員を置く。

３　会長館の事務部長、又はこれに準ずる者が事務局長となる。

（会則の変更）

第15条　この会則の変更は、総会の承認を得なければならない。

（附　則）

本会則は、昭和25年５月１日から施行する。

（附　則）

この改正は、昭和50年７月23日より施行する。

東海地区大学図書館協議会
運営委員会規程

第１条　運営委員会は、本会の運営に関する事項を審議する。

第２条　運営委員会の構成は、国立大３、公立大３、私立大４、（短大１を含む）とする。

第３条　運営委員は、総会において選出する。

２　運営委員の任期は２年とする。ただし、再任を妨げない。

３　前項の任期が満了しても、後任者が就任するまでは、なお、その任にあるものとする。

第４条　運営委員会に、委員長をおく。

２　運営委員長は、会長がこれに当たる。

３　運営委員長は、必要に応じ委員会を招集することができる。

第５条　運営委員会に、必要に応じて小委員会を置くことができる。

第６条　運営委員会の事務は、事務局内において行う。

附　則

この改正は平成 12 年７月 19 日から施行する。

東海地区大学図書館協議会
機関誌編集委員会規程

１　機関誌の発行について、編集委員会を設ける。

２　編集委員は、会長の指名による。

３　編集委員会に、委員長を置く。

４　編集委員長は、会長がこれにあたる。

５　編集委員長は、必要に応じ委員会を招集することができる。

６　編集委員会の事務は、事務局内において行う。

東海地区大学図書館協議会
研修企画小委員会内規

平成 12 年 10 月６日
運営委員会

（目的）

第１　この内規は、東海地区大学図書館協議会（以下「協議会」という。）の研修に関し、必要な事項を審議するため、運営委員会の下に研修企画小委員会（以下「小委員会」という。）を置き、必要な事項を定めることを目的とする。

（審議事項）

第２　小委員会は、次に掲げる事項を行う。

一　協議会が行う研修の企画に関すること

二　その他研修に関し、必要な事項

（小委員会の構成）

第３　小委員会は、次に掲げる委員館をもって構成する。

一　協議会会長館

二　国立、公立、私立の運営委員館から各１館

三　研修会会場館

２　小委員会に委員長館を置き、小委員会の互選による。

（小委員会の庶務）

第４　小委員会の庶務は、協議会事務局において処理する。

附　則

この内規は、平成 12 年 10 月６日から施行する。

東海地区大学図書館協議会
ホームページ小委員会内規

平成 12 年 10 月６日
運営委員会

（目的）

第１　この内規は、東海地区大学図書館協議会（以下「協議会」という。）のホームページ（以下「ホームページ」という。）に関し、必要な事項を審議するため、運営委員会の下にホームページ小委員会（以下「小委員会」という。）を置き、必要な事項を定めることを目的とする。

（審議事項等）

第２　小委員会は、次に掲げる事項を行う。

一　ホームページの運用・管理に関すること。

二　ホームページの企画・編集に関すること。

三　その他ホームページに関し、必要な事項。

（小委員会の構成）

第３　小委員会は次に掲げる委員館をもって構成する。

一　協議会会長館
二　国立、公立、私立の運営委員館から各１館
2　小委員会に委員長館を置き、小委員会の互選による。
（小委員会の庶務）
第４　小委員会の庶務は、協議会事務局において処理する。
附　則
この内規は、平成 12 年 10 月 6 日から施行する。

東海地区大学図書館協議会ホームページによる情報発信に関わる申し合わせ

平成 12 年 10 月 6 日
運営委員会

1　情報発信の範囲
ホームページを通じて発信する情報は、次の各号に該当するものとする。
①協議会事業に関する情報
②協議会加盟館に関する情報
③その他ホームページ小委員会（以下「小委員会」という。）が必要と認めた情報
2　情報発信できる者の範囲
ホームページを通じて情報発信できる者は協議会加盟館とする。
3　情報発信の手続き
①ホームページを通じて情報発信しようとする者は、協議会事務局宛に HTML 形式の文書をメールで送付するものとする。
②加盟館から送付された文書の内容は原則として変更しない。
③ホームページに掲載する文書の登録及び削除の決定は、小委員会が行う。但し、疑義があるときは、小委員会は運営委員会委員長と協議する。
④ホームページを通じて情報公開している者で、公開する情報の変更又は停止等の事由が生じた時は、速やかに協議会事務局に連絡する。
⑤小委員会は公開されたホームページの情報が不適当と判断した場合は、そのファイルを削除し、リンクを切断することができるものとする。
4　ホームページ
当分の間、ホームページは名古屋大学附属図書館内のサーバーに置く。

表彰規程

第１条　東海地区大学図書館協議会会則第４条第５号に基づき加盟館の職員に対して行う表彰はこの規程の定めるところによる。
第２条　毎年総会の前日までに通算 20 年図書館に在職する者。
第３条　この規程による表彰は加盟館長の推薦により総会において行う。
第４条　表彰者には記念品及び感謝状を贈呈する。
第５条　この規程の改正は総会の議決によって行う。
附　則
この規程は、昭和 44 年 10 月 29 日から実施する。

表彰者推薦に関する申合せ

（昭和 53 年 9 月 4 日）

東海地区大学図書館協議会の加盟館に在職する者のうち、つぎの各項のいずれかに該当する者を推薦することとする。
⑴　毎年総会の前日までに通算 20 年以上加盟館に在職する者。
⑵　毎年総会の前日までに通算 25 年以上図書館に在職し、かつ３年以上加盟館に在職する者。
なお、⑴、⑵のいずれについても事務補佐員としての在職期間も加算するものとする。

総会当番館一覧

東海地区大学図書館協議会　総会当番館一覧

回	年 月	館　　名	県別
1	昭和25. 6	名古屋大学	愛知
2	26. 6	金城学院大学	〃
3	26.11	三重大学	三重
4	27. 5	愛知学芸大学	愛知
5	27.10	名古屋工業大学	〃
6	28. 5	三重県立大学	三重
7	28. 8	名古屋市立大学	愛知
8	29.10	静岡大学	静岡
9	30. 9	岐阜大学	岐阜
10	31. 5	愛知大学	愛知
11	32.10	日本大学（三島）	静岡
12	33. 6	名城大学	愛知
13	34. 9	岐阜薬科大学	岐阜
14	35.11	名古屋大学	愛知
15	36.11	南山大学	〃
16	37. 6	岐阜県立医科大学	岐阜
17	38. 6	名古屋工業大学	愛知
18	39.10	愛知県立大学	〃
19	40.10	日本福祉大学	〃
20	41.10	中京大学	〃
21	42.11	岐阜薬科大学	岐阜
22	43.11	愛知学院大学	愛知
23	44.10	三重大学	三重
24	45. 9	同朋大学	愛知
25	46.10	名古屋市立大学	〃
26	47.10	中部工業大学	〃
27	48.10	愛知教育大学	〃
28	49.10	大同工業大学	〃
29	50. 7	愛知県立芸術大学	〃
30	51. 6	市邨学園女子短期大学	〃
31	52. 6	静岡大学	静岡
32	53. 9	愛知工業大学	愛知
33	54. 9	静岡女子大学	静岡
34	55. 9	名古屋学院大学	愛知
35	56.10	浜松医科大学	静岡
36	57. 9	名古屋女子大学	愛知
37	58.10	静岡薬科大学	静岡
38	59. 9	南山大学	愛知
39	60.10	豊橋技術科学大学	〃
40	61. 6	中京大学	〃
41	62. 6	愛知県立大学	〃
42	63. 6	愛知学院大学	〃
43	平成 元. 6	愛知教育大学	〃
44	2. 6	愛知大学	〃
45	3. 7	静岡県立大学	静岡
46	4. 6	中部大学	愛知
47	5. 6	岐阜大学	岐阜
48	6. 7	名古屋学院大学	愛知
49	7. 6	岐阜薬科大学	岐阜
50	8. 7	愛知大学	愛知
51	9. 7	浜松医科大学	静岡
52	10. 7	日本福祉大学	愛知
53	11. 7	愛知県立看護大学	〃
54	12. 7	愛知工業大学	〃
55	13. 7	三重大学	三重
56	14. 7	金城学院大学	愛知
57	15. 6	岐阜県立看護大学	岐阜
58	16. 7	南山大学	愛知
59	17. 7	名古屋工業大学	〃
60	18. 7	名城大学	〃
61	19. 8	愛知県立芸術大学	〃
62	20. 8	愛知淑徳大学	〃
63	21. 8	名古屋大学	〃
64	22. 8	名古屋外国語大学・ 名古屋学芸大学	〃
65	23. 8	名古屋市立大学	〃
66	24. 8	中京大学	〃
67	25. 8	静岡大学	静岡
68	26. 8	中部大学	愛知
69	27 予定	愛知県立大学	〃
70	28 予定	名古屋学院大学	〃

国立→私立→公立→私立の順による

東海地区大学図書館協議会加盟館一覧

平成 26 年 12 月 1 日現在

図書館名	法人名	館長	郵便番号	住所	電話	FAX
	(85)					
□■　岐阜県　■□	(14)					
朝日大学図書館	学校法人 朝日大学	田村　康夫	〒501-0296	瑞穂市穂積 1851-1	(058)329-1051	(058)329-0021
岐阜大学図書館	国立大学法人	福士　秀人	〒501-1193	岐阜市柳戸 1-1	(058)293-2184	(058)293-2194
岐阜医療科学大学 図書館	学校法人 神野学園	阿部　順子	〒501-3892	関市市平賀字長峰 795-1	(0575)22-9401	(0575)46-9570
岐阜経済大学図書館	学校法人 岐阜経済大学	竹内　治彦	〒503-8550	大垣市北方町 5-50	(0584)77-3527	(0584)77-3528
岐阜県立看護大学 図書館	公立大学法人 岐阜県立看護大学	杉野　　緑	〒501-6295	羽島市江吉良町 3047-1	(058)397-2304	(058)397-2304
岐阜市立女子短期大学 附属図書館		道家　晶子	〒501-0192	岐阜市一日市場北町 7-1	(058)296-3123	(058)296-3130
岐阜聖徳学園大学 図書館	学校法人 聖徳学園	中島　利郎	〒501-6194	岐阜市柳津町高桑西 1-1	(058)279-6416	(058)279-1242
岐阜女子大学図書館	学校法人 杉山女子学園	生田　孝至	〒501-2592	岐阜市太郎丸 80	(058)214-9317	(058)229-2222
岐阜保健短期大学 図書館	学校法人 豊田学園	岩久　文彦	〒500-8281	岐阜市東鶉 2-92	(058)274-5001	(058)274-5260
岐阜薬科大学附属 図書館		足立　哲夫	〒502-8585	岐阜市三田洞東 5 丁目 6-1	(058)237-3931	(058)237-3631
情報科学芸術大学院 大学附属図書館		小林　昌廣	〒503-0014	大垣市領家町 3-95	(0584)75-6803	(0584)75-6803
中京学院大学 図書メディアセンター	学校法人 安達学園	古谷　昭雄	〒509-9195	中津川市千旦林 1-104	(0573)66-3121 （代表）	(0573)62-0325
中部学院大学 附属図書館	学校法人 岐阜済美学院	正村　静子	〒501-3993	関市桐ヶ丘 2 丁目 1 番地	(0575)24-2243	(0575)24-2434
東海学院大学・ 東海学院大学短期大学 部附属図書館	学校法人 神谷学園	山田　　隆	〒504-8511	各務原市那加桐野町 5-68	(058)389-2969	(058)371-9851
□■　静岡県　■□	(12)					
静岡大学附属図書館	国立大学法人	髙松　良幸	〒422-8529	静岡市駿河区大谷 836	(054)238-4474	(054)238-5408
静岡県立大学附属 図書館	静岡県公立大 学法人	小林みどり	〒422-8526	静岡市駿河区谷田 52-1	(054)264-5801	(054)264-5899
静岡県立大学短期大学 部附属図書館	静岡県公立大 学法人	漁田　俊子	〒422-8021	静岡市駿河区小鹿 2-2-1	(054)202-2617	(054)202-2620
静岡産業大学図書館	学校法人 新静岡学園	浅羽　　浩	〒438-0043	磐田市大原 1572-1	(0538)36-8844	(0538)36-3580
静岡文化芸術大学 図書館・情報センター	公立大学法人 静岡文化芸術大学	黒田　宏治	〒430-8533	浜松市中区中央二丁目 1 番 1 号	(053)457-6124	(053)457-6125
静岡理工科大学附属 図書館	学校法人 静岡理工科大学	秋山　憲治	〒437-8555	袋井市豊沢 2200-2	(0538)45-0231	(0538)45-0230
聖隷クリストファー大学 図書館	学校法人 聖隷学園	鮫島　道和	〒433-8558	浜松市北区三方原町 3453	(053)439-1416	(053)414-1146
東海大学付属図書館 清水図書館	学校法人 東海大学	加藤　義久	〒410-0395	沼津市西野 317	(054)334-0414	(054)334-0862
東海大学短期大学部 図書館	学校法人 東海大学	坂本　雅子	〒420-8511	静岡市葵区宮前町 101	(054)261-9527	(054)261-6865

図書館名	法人名	館長	郵便番号	住所	電話	FAX
常葉大学附属図書館	学校法人 常葉学園	畑　　隆	〒420-0911	静岡市葵区瀬名 1-22-1	(054)261-4499	(054)263-1164
日本大学国際関係学部 図書館	学校法人 日本大学	田中　徳一	〒411-8555	三島市文教町 2 丁目 31-145	(055)980-0806	(055)988-7875
浜松医科大学附属 図書館	国立大学法人	針山　孝彦	〒431-3192	浜松市東区半田山一丁目 20-1	(053)435-2169	(053)435-5140

□■　愛知県　■□　(50)

愛知大学図書館	学校法人 愛知大学	荒川　清秀	〒453-8777	名古屋市中村区平池町 4 丁目 60 番 6	(052)564-6115	(052)564-6215
愛知医科大学医学 情報センター（図書館）	学校法人 愛知医科大学	小林　章雄	〒480-1195	長久手市岩作雁又 1-1	(0561)62-3311	(0561)62-3348
愛知学院大学図書館 情報センター	学校法人 愛知学院	白石　浩之	〒470-0195	日進市岩崎町阿良池 12	(0561)73-1111 （代表）	(0561)73-7810
愛知学泉大学図書館	学校法人 安城学園	今枝　辰博	〒471-8532	豊田市大池町汐取 1	(0565)35-7097	(0565)35-1003
愛知教育大学附属 図書館	国立大学法人	西宮　秀紀	〒448-8542	刈谷市井ヶ谷町広沢 1	(0566)26-2683	(0566)26-2680
愛知県立大学学術研究 情報センター図書館	愛知県公立大 学法人	鵜殿　悦子	〒480-1198	長久手市茨ヶ廻間 1522-3	(0561)76-8841	(0561)64-1104
愛知県立芸術大学芸術 情報センター図書館	愛知県公立大 学法人	松野　　修	〒480-1194	長久手市岩作三ケ峯 1-114	(0561)76-2963	(0561)62-0244
愛知工科大学附属 図書館	学校法人 電波学園	村上　　新	〒443-0047	蒲郡市西迫町馬乗 50-2	(0533)68-1135	(0533)68-0352
愛知工業大学附属 図書館	学校法人 名古屋電気学園	吉賀　憲夫	〒470-0392	豊田市八草町八千草 1247	(0565)48-8121	(0565)48-2908
愛知産業大学・短期大 学図書館	学校法人 愛知産業大学	須賀　周平	〒444-0005	岡崎市岡町字原山 12-5	(0564)48-4591	(0564)48-5113
愛知淑徳大学図書館	学校法人 愛知淑徳学園	垂井　洋蔵	〒480-1197	長久手市片平 2-9	(0561)62-4111 （代表）	(0561)64-0310
愛知東邦大学図書館	学校法人 東邦学園	山極　完治	〒465-8515	名古屋市名東区平和ケ丘 3-11	(052)782-1243	(052)781-0931
愛知文教大学附属 図書館	学校法人 足立学園	黒田　彰子	〒485-8565	小牧市大草 5969-3	(0568)78-2211	(0568)78-2240
桜花学園大学図書館	学校法人 桜花学園	近藤　正春	〒470-1193	豊明市栄町武侍 48	(0562)97-1725	(0562)97-1703
金城学院大学図書館	学校法人 金城学院	二杉　孝司	〒463-8521	名古屋市守山区大森 2-1723	(052)798-0180	(052)768-1066
至学館大学附属図書館	学校法人 至学館	松岡　孝博	〒474-8651	大府市横根町名高山 55	(0562)46-1239	(0562)46-3860
自然科学研究機構 岡崎情報図書館	大学共同利用 機関法人	井本　敬二	〒444-8585	岡崎市明大寺町西郷中 38	(0564)55-7191	(0564)55-7199
修文大学附属図書館	学校法人 一宮女学園	池野　武行	〒491-0938	一宮市日光町 6 番地	(0586)45-2101	(0586)45-4410
椙山女学園大学図書館	学校法人 椙山女学園	髙阪　謙次	〒464-8662	名古屋市千種区星が丘元町 17-3	(052)781-6452	(052)781-3094
星城大学図書館	学校法人 名古屋石田学園	加藤　省三	〒476-8588	東海市富貴ノ台 2-172	(052)601-6000 （代表）	(052)601-6137
瀬木学園図書館	学校法人 瀬木学園	土田　　満	〒467-0867	名古屋市瑞穂区春敲町 2-13	(052)882-3152	(052)882-3170
大同大学図書館	学校法人 大同学園	水澤　富作	〒457-8530	名古屋市南区滝春町 10-3	(052)612-6873	(052)612-6108
中京大学図書館	学校法人 梅村学園	佐藤　　隆	〒466-8666	名古屋市昭和区八事本町 101-2	(052)835-7157	(052)835-1249
中部大学附属 三浦記念図書館	学校法人 中部大学	内藤　和彦	〒487-8501	春日井市松本町 1200	(0568)51-4317	(0568)52-1510
同朋学園大学部 附属図書館	学校法人 同朋学園	服部　　仁	〒453-8540	名古屋市中村区稲葉地町 7-1	(052)411-1951	(052)411-1120

図書館名	法人名	館長	郵便番号	住所	電話	FAX
東海学園大学図書館	学校法人 東海学園	小林　幸夫	〒468-8514	名古屋市天白区中平２丁目 901	(052)801-1528	(052)804-1192
豊田工業大学 総合情報センター	学校法人 トヨタ学園	大石　泰丈	〒468-8511	名古屋市天白区久方 2-12-1	(052)809-1743	(052)809-1744
豊田工業高等専門学校 図書館	独立行政法人 国立高等専門 学校機構	松浦　由起	〒471-8525	豊田市栄生町 2-1	(0565)36-5904	(0565)36-5920
豊橋技術科学大学 附属図書館	国立大学法人	大貝　　彰	〒441-8580	豊橋市天伯町字雲雀ヶ丘 1-1	(0532)44-6562	(0532)44-6566
豊橋創造大学附属 図書館	学校法人 藤ノ花学園	宮原　英夫	〒440-8511	豊橋市牛川町松下 20-1	(050)2017-2105	(050)2017-2115
名古屋大学附属図書館	国立大学法人	佐野　　充	〒464-8601	名古屋市千種区不老町	(052)789-3666	(052)789-3693
名古屋外国語大学・ 名古屋学芸大学図書館	学校法人 中西学園	杉浦　康夫	〒470-0188	日進市岩崎町竹ノ山 57	(0561)75-1726	(0561)75-1727
名古屋学院大学 学術情報センター	学校法人 名古屋学院大学	三井　　哲	〒456-8612	名古屋市熱田区熱田西町 1-25	(052)678-4092	(052)682-6826
名古屋経済大学・ 名古屋経済大学短期大 学部図書館	学校法人 市邨学園	近藤　久雄	〒484-0000	犬山市字樋池 61-22	(0568)67-3798	(0568)67-9321
名古屋芸術大学附属 図書館	学校法人 名古屋自由学院	橋本　裕明	〒481-8503	北名古屋市熊之庄古井 281	(0568)24-0315 （代表）	(0568)24-0393
名古屋工業大学附属 図書館	国立大学法人	喜岡　　渉	〒466-8555	名古屋市昭和区御器所町	(052)735-5098	(052)735-5102
名古屋産業大学・ 名古屋経営短期大学 図書館	学校法人 菊武学園	巣　　宇燕	〒488-8711	尾張旭市新居町山の田 3255-5	(0561)55-3081	(0561)55-5985
名古屋商科大学 中央情報センター	学校法人 栗本学園	浅野　一明	〒470-0193	日進市米野木町三ヶ峯 4-4	(0561)73-2111 （代表）	(0561)74-0341
名古屋女子大学 学術情報センター	学校法人 越原学園	越原洋二郎	〒467-8610	名古屋市瑞穂区汐路町 3-40	(052)852-9768	(052)852-1830
名古屋市立大学 総合情報センター	公立大学法人 名古屋市立大学	三澤　哲也	〒467-8501	名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑 1	(052)872-5795	(052)872-5781
名古屋造形大学図書館	学校法人 同朋学園	大橋　基博	〒485-8563	小牧市大字大草字年上坂 6004	(0568)79-1255	(0568)47-0361
名古屋短期大学図書館	学校法人 桜花学園	井上　文人	〒470-1193	豊明市栄町武侍 48	(0562)97-1725	(0562)97-1703
名古屋文理大学 図書情報センター	学校法人 滝川学園	山住　富也	〒492-8520	稲沢市稲沢町前田 365	(0587)23-2400 （代表）	(0587)21-2844
名古屋柳城短期大学 図書館	学校法人 柳城学院	野々垣文成	〒466-0034	名古屋市昭和区明月町 2-54	(052)841-2635	(052)841-2697
南山大学図書館	学校法人 南山学園	森山　幹弘	〒466-8673	名古屋市昭和区山里町 18	(052)832-3163	(052)833-6986
日本赤十字豊田看護大学 図書館	学校法人 日本赤十字学園	島井　哲志	〒471-8565	豊田市白山町七曲 12-33	(0565)36-5119	(0565)37-7897
日本福祉大学付属 図書館	学校法人 日本福祉大学	平野　隆之	〒470-3295	知多郡美浜町大字奥田字会下前 35-6	(0569)87-2325	(0569)87-2795
人間環境大学附属 図書館	学校法人 河原学園	川口　雅昭	〒444-3505	岡崎市本宿町字上三本松 6-2	(0564)48-7815	(0564)48-7815
藤田学園医学・ 保健衛生学図書館	学校法人 藤田学園	橋本　修二	〒470-1192	豊明市沓掛町田楽ヶ窪 1-98	(0562)93-2420	(0562)93-2649
名城大学附属図書館	学校法人 名城大学	木村　裕三	〒468-8502	名古屋市天白区塩釜口 1-501	(052)832-1151 （代表）	(052)833-6046

図書館名	法人名	館長	郵便番号	住所	電話	FAX
□■　三重県　■□	(9)					
皇學館大学附属図書館	学校法人 皇學館	高倉　一紀	〒516-8555	伊勢市神田久志本町1704	(0596)22-6322	(0596)22-6329
鈴鹿医療科学大学附属図書館	学校法人 鈴鹿医療科学大学	林　顕效	〒510-0293	鈴鹿市岸岡町1001-1	(059)383-8991	(059)383-9915
鈴鹿国際大学附属図書館	学校法人 享栄学園	福永　峰子	〒510-0298	鈴鹿市郡山町663-222	(059)372-3950	(059)372-2827
鈴鹿短期大学図書館	学校法人 享栄学園	福永　峰子	〒510-0298	鈴鹿市郡山町663-222	(059)372-3950	(059)372-3903
三重大学附属図書館	国立大学法人	吉岡　基	〒514-8507	津市栗真町屋町1577	(059)231-9083	(059)231-9086
三重県立看護大学附属図書館	公立大学法人 三重県立看護大学	齋藤　真	〒514-0116	津市夢が丘1-1-1	(059)233-5608	(059)233-5668
津市立三重短期大学附属図書館		雨宮　照雄	〒514-0112	津市一身田中野157	(059)232-2341	(059)232-9647
四日市大学情報センター	学校法人 暁学園	松井真理子	〒512-8512	四日市市萱生町1200	(059)365-6712	(059)365-6619
四日市看護医療大学図書館	学校法人 暁学園	ﾀﾞﾆｴﾙ・ｶｰｸ	〒512-8045	四日市市萱生町1200	(059)340-0705	(059)361-1401

役員館一覧

東海地区大学図書館協議会役員館一覧（平成 12 年度～平成 27 年度）

年度	総　会 当番館	研修会 会場館	会長館	運営委員会	機関誌編集 委員会	監事会	研修企画 小委員会	ホームページ 小委員会
				会長 国立３，公立３，私立４（短大１を含む） オブザーバ：総会当番館	会長 編集委員は会長の指名	総会で選出，監事館の図書館長が監事となる	会長館 国立，公立，私立の運営委員館から各１館 研修会会場館	会長館 国立，公立，私立の運営委員館から各１館
平成12年度	愛知工業大学	愛知教育大学 名古屋大学	名古屋大学	三重大学 名古屋工業大学 静岡大学 愛知県立看護大学 名古屋市立大学 三重短期大学 椙山女学園大学 大同工業大学 岐阜聖徳学園大学 名古屋短期大学	愛知教育大学 岐阜大学 名古屋工業大学 愛知県立大学 愛知学院大学	愛知県立芸術大学 名城大学	名古屋大学 三重大学 名古屋市立大学 椙山女学園大学 研修会会場館	
平成13年度	三重大学	大同工業大学 名古屋大学						
平成14年度	金城学院大学	名古屋大学 名古屋市立大学	名古屋大学	愛知教育大学 岐阜大学 豊橋技術科学大学 愛知県立看護大学 名古屋市立大学 岐阜市立女子短期大学 椙山女学園大学 金城学院大学 皇學館大学 愛知女子短期大学	愛知教育大学 岐阜大学 名古屋工業大学 愛知県立大学 愛知学院大学	愛知県立芸術大学 名城大学	名古屋大学 岐阜大学 愛知県立看護大学 金城学院大学 研修会会場館	
平成15年度	岐阜県立看護大学	名古屋大学 椙山女学園大学						
平成16年度	南山大学	名古屋大学 岐阜大学	名古屋大学	浜松医科大学 三重大学 名古屋工業大学 愛知県立看護大学 名古屋市立大学 ／静岡県立大学短期大学部（H17） 南山大学 中京大学 東海女子大学 名古屋経済大学短期大学部	愛知教育大学 岐阜大学 名古屋工業大学 愛知県立大学 愛知学院大学	愛知県立芸術大学 金城学院大学	名古屋大学 名古屋工業大学 名古屋市立大学 中京大学 研修会会場館	
平成17年度	名古屋工業大学	中京大学 名古屋大学						
平成18年度	名城大学	岐阜県立看護大学 名古屋大学	名古屋大学	静岡大学 豊橋技術科学大学 愛知教育大学 愛知県立看護大学 名古屋市立大学 静岡県立大学短期大学部（H18） ／三重短期大学（H19） 名城大学 中部大学 中京女子大学 名古屋柳城短期大学	愛知教育大学 岐阜大学 名古屋工業大学 愛知県立大学 愛知学院大学	愛知県立芸術大学 南山大学	名古屋大学 静岡大学 名古屋市立大学 中部大学 研修会会場館	名古屋大学 豊橋技術科学大学 名古屋市立大学 中京女子大学
平成19年度	愛知県立芸術大学	名古屋大学 中部大学						
平成20年度	愛知淑徳大学	浜松医科大学 名古屋大学	名古屋大学	岐阜大学 浜松医科大学 三重大学 愛知県立看護大学（H20）／愛知県立大学（H21） 名古屋市立大学 津市立三重短期大学 愛知淑徳大学 同朋学園大学 豊田工業大学 鈴鹿短期大学	愛知教育大学 岐阜大学 名古屋工業大学 愛知県立大学 愛知学院大学	愛知県立芸術大学 名城大学	名古屋大学 浜松医科大学 名古屋市立大学 同朋学園大学	名古屋大学 三重大学 名古屋市立大学 豊田工業大学
平成21年度	名古屋大学	同朋学園大学 名古屋大学						
平成22年度	名古屋外国語大学・名古屋学芸大学	静岡県立大学 名古屋大学	名古屋大学	名古屋工業大学 静岡大学 豊橋技術科学大学 愛知県立大学 名古屋市立大学 岐阜市立女子短期大学 名古屋外国語大学・名古屋学芸大学 豊橋創造大学 名古屋学院大学 名古屋産業大学・名古屋経営短期大学図書館	愛知教育大学 岐阜大学 名古屋工業大学 愛知県立大学 愛知学院大学	愛知県立芸術大学 愛知淑徳大学	名古屋大学 静岡大学 名古屋市立大学 豊橋創造大学 静岡県立大学	名古屋大学 豊橋技術科学大学 名古屋市立大学 名古屋学院大学
平成23年度	名古屋市立大学	豊橋創造大学 名古屋大学						
平成24年度	中京大学	三重大学 名古屋大学	名古屋大学	愛知教育大学 岐阜大学 浜松医科大学 愛知県立大学 名古屋市立大学 静岡県立短期大学部 中京大学 名古屋経済大学 名古屋芸術大学 名古屋柳城短期大学	愛知教育大学 岐阜大学 名古屋工業大学 名古屋市立大学 愛知学院大学	愛知県立芸術大学 名古屋外国語大学・名古屋学芸大学	名古屋大学 岐阜大学 愛知県立大学 名古屋経済大学 三重大学	名古屋大学 浜松医科大学 名古屋市立大学 名古屋芸術大学
平成25年度	静岡大学	名古屋経済大学 名古屋大学						
平成26年度	中部大学	愛知県立芸術大学 名古屋大学	名古屋大学	静岡大学 名古屋工業大学 三重大学 愛知県立大学 名古屋市立大学 津市立三重短期大学 中部大学 名古屋外国語大学・名古屋学芸大学 名古屋商科大学 名古屋経済大学・名古屋経済大学短期大学部	愛知教育大学 岐阜大学 名古屋工業大学 名古屋市立大学 愛知学院大学	岐阜薬科大学 中京大学	名古屋大学 静岡大学 愛知県立大学 名古屋外国語大学・名古屋学芸大学 愛知県立芸術大学	名古屋大学 名古屋工業大学 名古屋市立大学 名古屋商科大学
平成27年度	愛知県立大学	名古屋外国語大学・名古屋学芸大学 名古屋大学						

研修会一覧

東海地区大学図書館協議会研修会一覧（平成元年度～平成 25 年度）

年度	年月日	会　場	演　題	講　師	所　属
元	元 .12. 5	名 城 大 学	学術情報サービスの展開と大学図書館	門條　司	化学情報協会
			アダム・スミスの蔵書をめぐって	水田　洋	名城大学
	2. 1.31	名 古 屋 大 学	大学図書館の未来像	丸山昭二郎	鶴見大学
2	2.11.29	名 古 屋 大 学	Collection building について	川原　和子	三重大学
			大学図書館とニュー・メディア	橋爪　宏達	学術情報センター
	3. 1.30	大同工業大学	『経済学文献季報』のデータベース化について－ KEIS から KEIS II へ	山内　隆文	名古屋学院大学
			私の日本の古典文献とのつきあい	朝倉　治彦	四日市大学
3	3.11. 8	名古屋学院大	ドイツ及び英国の図書館事情	牧村　正史	名古屋大学
			江戸時代の出版	長島　弘明	名古屋大学
	4. 1.17	愛知県図書館	目録システムにおけるハイパーテキストの適用可能性	石塚　英弘	図書館情報大学
			新図書館概要説明及び見学	鈴木　康之	愛知県図書館
4	4.10.21	南 山 大 学	慶應義塾大学の新しい試み－マルチメディアの統合－	原田　悟	慶應義塾大学
			図書館の施設計画に関連して	加藤　彰一	名古屋大学
	5. 3.19	名 古 屋 大 学	カリフォルニア大学バークレー校の図書館システム	棚橋　章	名古屋大学
			電子情報サービスの新しい展開	寺村　謙一	丸善㈱
5	6. 1.26	施設見学会：けいはんなインフォザール			
	6. 3.23	愛知医科大学	シーボルトと中京の学者たち	武内　博	東京学芸大学
			大学図書館におけるコレクション形成・管理の意義と問題点	三浦　逸雄	東京大学
6	6.12. 6	愛知学院大学	アメリカ図書館最新事情	渡辺　和代 川瀬　正幸	名古屋アメリカンセンター 名古屋大学
			地域・館種を越えた図書館サービス－すべての図書館をすべての利用者に－	雨森　弘行	三重県立図書館
	7. 2.22	施設見学会：三重県図書館			
7	7.10.27	名 古 屋 大 学	鯨と捕鯨の文化史	森田　勝昭	甲南女子短期大学部
			研究図書館としての電子図書館の事例－機能と運営－	渡辺　博	奈良先端科学技術大学院大学
	7.12. 7	愛知工業大学	シンポジウム：利用者教育の在り方－方法と問題点－	光斎　重治 高橋　一郎 四谷あさみ 堀　茂 金子　豊	中部大学 愛知県立大学 愛知淑徳大学 名古屋大学 名古屋大学
8	8.10.24	名 古 屋 大 学	インターネット，イントラネットを前提とした図書館情報サービスの将来	後藤　邦夫	南山大学
			電子図書館の諸相：US Berkeley Digital Library Project と Ariadne97	谷口　敏夫	光華女子大学
	8.12. 4	愛知淑徳大学	シンポジウム：NDC 新版 9 版について	石山　洋 万波　涼子 中井えり子 酒井　信	東海大学 名古屋市立大学 名古屋大学 名城大学

年度	年月日	会　場	演　題	講　師	所　属
9	9.10.30	名古屋大学	英国大学図書館における電子情報サービスの進展	尾城　孝一	東京工業大学
			フランス国立図書館 BNF	篠田知和基	名古屋大学
	9.12.10	朝日大学	講演 歌うコンピュータ・描くコンピュータ－マルチメディア時代への布石－	板谷　雄二	朝日大学
			フォーラム：マルチメディアと電子図書館－図書館機能におけるホームページ－	津田　明美 林　哲也 鈴木　康生 三浦　基	愛知工業大学 浜松医科大学 名古屋大学 南山大学
10	10.12. 5	名古屋大学	テーマ：電子ジャーナルの”いま”と”こんご” 講演 デジタルメディアの現状と今後	逸村　裕	愛知淑徳大学
			電子ジャーナルの事例報告 EES, Science Direct FirstSearch, FirstSearch ECO Journals@ovid, HighWire Press	エルゼビア 紀伊國屋書店 ユサコ	
	10.12.16	岐阜経済大学	テーマ：大学図書館における電子情報サービスの実際 ネット時代の教育・研究環境と図書館の活用	松島　桂樹	岐阜経済大学
			電子情報サービスの事例報告	安田多香子 野村　千里 夏目弥生子	愛知県立大学 南山大学 名古屋大学
11	11.11. 2	名古屋大学	テーマ：著作権法と大学図書館 大学図書館にかかわる著作権問題	石倉　賢一	千葉大学
			電子図書館サービスと著作権	山本　順一	図書館情報大学
	11.12. 7	岐阜女子大学	テーマ：大学図書館と学生用図書 大学教育改革と学生用図書	柴田　正美	三重大学
			事例報告	江口　愛子 吉根佐和子 福井　司郎	浜松医科大学 名古屋市立大学 中京大学
12	13. 1.18	愛知教育大学	テーマ：大学図書館における相互協力 大学図書館における相互協力	石井　啓豊	図書館情報大学
			事例報告	平井　芳美 濱口　幾子 加藤　直美	名古屋大学 愛知県立看護大学 愛知工業大学
	13. 3. 9	名古屋大学	テーマ：大学図書館の管理・運営 大学図書館の管理・運営	長谷川豊祐	鶴見大学
			コンソーシアムを視野においた大学図書館の運営	松下　鈞	国立音楽大学
13	13.12.20	大同工業大学	テーマ：古文書の整理と保存：電子メディア変換（画像）による利用について 講演 古文書の整理と保存	秋山　晶則	名古屋大学
			事例報告 徳島大学附属図書館貴重資料高精細デジタルアーカイブ－21 世紀地域ネットワークへの試み－	岡田　惠子	徳島大学
	14. 1.24	名古屋大学	テーマ：図書館の電子化と所蔵資料を核とした地域との連携 ディジタル時代の図書館	逸村　裕	名古屋大学
			所蔵資料の高度活用を目指して－地域の博物館・図書館等の連携－	種田　祐司	名古屋市博物館
14	14.12.13	名古屋大学	テーマ：学術情報の電子化を考える 講演 学術情報の電子化が意味するもの－研究者の立場から考える－	倉田　敬子	慶應義塾大学
			事例報告 名古屋大学における電子ジャーナルの現状について	澄川千賀子・ 川添　真澄	名古屋大学

年度	年月日	会　場	演　題	講　師	所　属
14	15. 3. 4	名古屋市立大学	テーマ：現代の大学図書館と著作権 講演 現代の大学図書館と著作権	土屋　俊	千葉大学
15	15.12.15	名古屋大学	テーマ：図書館のサービス・マネジメントと評価 講演 図書館のサービス・マネジメント：顧客の選好と評価	永田　治樹	筑波大学
	16. 2.19	椙山女学園大学	テーマ：SPARC の現状と SPARC/JAPAN の今後について 講演 SPARC の現状と SPARC/JAPAN の今後について	安達　淳	国立情報学研究所
16	16.12.17	名古屋大学	テーマ：電子的学術情報利用の進展と今後の展望 事例報告 名古屋大学の電子図書館化計画－機関リポジトリ構築計画を中心にして－ 医学系図書館の電子ジャーナル状況と日本医学図書館協会電子ジャーナルコンソーシアムの現状 電子ジャーナルの利点と課題－サイエンス・ダイレクトを例に－	郡司　久 坪内　政義 高橋　昭治	名古屋大学 愛知医科大学 エルゼビアジャパン
	17. 3. 3	ぱるるプラザ GIFU	テーマ：大学図書館におけるアウトソーシング 事例報告 日本福祉大学付属図書館におけるアウトソーシング アウトソーシングを活用した大学図書館運営－立命館大学における現状と課題－ アウトソーサーからみたアウトソーシング	岡崎　佳子 田中　康雄 図書館流通センター	日本福祉大学 立命館大学
17	17.12. 2	中京大学	テーマ：図書館情報リテラシー指導の現状－各大学の事例報告－ 基調講演 大学図書館と情報リテラシー	逸村　裕	名古屋大学
			事例報告 名古屋大学附属図書館における情報リテラシー教育 図書館情報リテラシー教育－小さな図書館，小さな学部での試み－ 中京大学図書館　情報リテラシー教育の現状 ニッチ戦略（隙間産業）で，大学に貢献できる情報リテラシー教育支援を目指す－三重大学附属図書館の取組－ 岐阜県立看護大学図書館における利用教育 大学ポータルを中心とした名古屋学院大学の情報環境	次良丸　章 原　泰子 春日井　正人 杉田　いづみ 井上　貴之 中田　晴美	名古屋大学 名古屋市立大学 中京大学 三重大学 岐阜県立看護大学 名古屋学院大学
	18. 1.30	名古屋大学	テーマ：利用者サイドに立つ図書館サービス 講演 北米大学図書館における利用者中心の図書館サービス	シャロン・ドマイヤー	マサチューセッツ大学
			利用者の利用行動に基づいた図書館サービス	越塚　美加	学習院女子大学
18	19. 1.12	岐阜県図書館	テーマ：大学図書館の地域連携 事例報告 相互利用協定と愛知県内図書館の ILL 定期便設置実証実験 静岡県内の大学図書館における連携について 岐阜県における公共図書館との連携図書館 東海目録（TOMcat）：病院図書室と大学図書館の連携 図書館の教育支援，地域支援：豊田高専の英語多読を通して	村上　昇平 大石　博昭 木村　晴茂 坪内　政義 西澤　一	愛知県図書館 静岡大学 岐阜大学 愛知医科大学 豊田工業高等専門学校
	19. 3. 7	名古屋大学	テーマ：Web2.0 時代の図書館サービス 基調講演 Web2.0 時代の図書館	岡本　真	Academic Resource Guide
			講演 図書館利用者の情報探索活動に関する実証的研究 Web2.0 時代の新たな図書館サービスの展開	寺井　仁 林　賢紀	名古屋大学 農林水産省

年度	年月日	会　場	演　題	講　師	所　属
19	19.11.28	名古屋大学	「図書館職員基礎研修」 講義 大学図書館職員に求められているもの 資料の収集～目録・分類 電子情報（電子ジャーナル，データベース等）	雨森　弘行 河谷　宗徳 粟野　容子	お茶の水女子大学 三重大学 名古屋大学
	19.11.28	名古屋大学	図書館情報リテラシー教育 ILL 大学図書館の最近の動向・海外事情	紅露　　剛 万波　涼子 松林　正己	南山大学 名古屋市立大学 中部大学
	20. 3. 5	中部大学	テーマ：魅力ある大学図書館をめざして 講演 どこから拓く？　大学図書館の可能性－学習支援の視点から ここから拓いた－お茶大図書館活性化のための５つの作戦	井上　真琴 茂出木　理子	同志社大学 お茶の水女子大学
20	20.12.22	アクトシティ浜松	テーマ：図書館と著作権 講演 図書館業務と著作権 映像資料の利用と著作権法について	南川　貴宣 三浦　正広	文化庁著作権課 国士舘大学
	21. 3. 4	西尾市岩瀬文庫	テーマ：学芸員の世界 岩瀬文庫見学 講演 学芸員の仕事　－内藤記念くすり博物館の世界－ 学芸員の仕事　－岩瀬文庫の世界－	野尻　佳与子 林　知左子	内藤記念くすり博物館 西尾市岩瀬文庫
21	21.12. 3	同朋大学	「図書館職員基礎研修」 講義 大学図書館職員に求められているもの 資料の収集～目録・分類 電子情報（電子ジャーナル，データベース等） 情報リテラシー教育 ILL 大学図書館と広報	雨森　弘行 河谷　宗徳 粟野　容子 久田　睦美 榊原　佐知子 渡邊　敏之	前お茶の水女子大学 三重大学 名古屋大学 名古屋市立大学 愛知医科大学 名古屋造形大学
	22. 2.23 22. 3. 5 22. 3.10	名古屋大学	保存修復講演会・講習会 テーマ：図書資料の保存と修復 講演 紙資料の保存修復 講習会 修復実務講習会	金山　正子 岩田　起代子	元興寺文化財研究所 前 名古屋産業大学・名古屋経営短期大学図書館
22	22.12. 9	名古屋大学	テーマ：実践で役立つレファレンス・ツール　－国立国会図書館提供ツールを中心に－ 講義１ 講義２	兼松　芳之	国立国会図書館
	23. 3.16	静岡県男女共同参画センター あざれあ	テーマ：電子書籍を中心とした資料のデジタル化の動向と図書館の今後 講演 変革期のデジタル化と図書館－国立国会図書館の動向を中心に－ 電子書籍の急速な普及と大学図書館	中井　万知子 竹内　比呂也	国立国会図書館関西館 千葉大学
23	23.12.15	名古屋大学	「図書館職員基礎研修」 講義 大学図書館職員に求められているもの 資料の収集～目録・分類 電子情報（電子ジャーナル，データベース等） ILL プレゼンテーション入門 カナダの大学図書館事情	加藤　信哉 河谷　宗徳 堀　　友美 万波　涼子 近田　政博 ゴードン・コールマン	名古屋大学 三重大学 名古屋大学 名古屋市立大学 名古屋大学 静岡大学
	24. 3. 8	名古屋大学	テーマ：災害時における危機管理 事例報告 そのとき私たちができたこと－東北大学附属図書館が遭遇した東日本大震災－ 私の東日本大震災体験－図書館の被害と復旧を中心として	小陳　左和子 和知　　剛	東北大学 郡山女子大学

年度	年月日	会　場	演　題	講　師	所　属
24	24.12.15	名古屋大学	テーマ：海外大学図書館にみる学習支援 報告 香港、シンガポール、オーストラリアの大学図書館におけるラーニング・コモンズの整備及び学習支援の現状 講演 大学図書館が実施する学習支援・教育支援サービス 北米の事例から見えるもの パネルディスカッション	 山田　政寛 橋　洋平 森部　圭亮 仲秋　雄介 池上　佳芳里 高橋　里江 神谷　知子 長澤　多代 近田　政博 (コーディネーター)	 金沢大学 金沢大学 静岡大学 名古屋大学 金沢大学 静岡大学 名古屋大学 三重大学 名古屋大学
	25. 3.13	三　重　大　学	テーマ：図書館資料の補修について 講義 図書館における資料保存の基本的な考え方 実習 簡易な補修 － 破れのつくろい、外れたページの差し込み	 大竹　茂 大竹　茂	 国立国会図書館 国立国会図書館
25	25.12.13	名古屋大学	「図書館職員基礎研修」 講義 激動の時代を生き抜くために 情報リテラシー教育 ILL(相互貸借) 電子情報（電子ジャーナル，電子ブック、データベース等) 分類・目録 プレゼンテーション入門	 白木　俊男 新海　弘之、 草間　知美 島田　美津穂 林　和宏 揚野　敏光 近田　政博	 富山大学 愛知県立大学 愛知大学 名古屋工業大学 名古屋大学 名古屋大学
	26. 3. 3	名古屋経済大学 名駅サテライトキャンパス	テーマ：西洋古典籍資料の整理・保存について 講演 歴史的製本の修理について 洋書の扉	 岡本　幸治 高野　彰	 製本家、アトリエ・ド・クレ主宰 元跡見学園女子大学

「東海地区大学図書館協議会誌」掲載記事の電子的公開，転載，学術機関リポジトリでの公開について

・著作権は著作者本人にあります。

・著作者本人が，ホームページ等で電子的公開，転載，あるいは学術機関リポジトリへ搭載する場合，著作者本人からの申請書等の提出は必要ありません。

（平成 19 年 7 月 9 日　東海地区大学図書館協議会運営委員会（第 19－1 回）決定）

東海地区大学図書館協議会誌　第 59 号（2014）

平成26年12月22日印刷　　平成26年12月25日発行

編 集 ・ 発 行　　東海地区大学図書館協議会事務局

名古屋市千種区不老町　　名古屋大学附属図書館内

電話　052－789－3666

ホームページ　　http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/tokai/

振　込　先　　三菱東京ＵＦＪ銀行今池支店　普通預金　口座 1747229